

BXグループ
CSR報告書
2017



「新しい」に、踏みだす。

シャッターやドアから新しい一日が始まるように
 BXグループは常に「新しい」価値創造に挑戦しています
 培ってきた技術を活かし
 あらゆる人々の暮らしにより多くの「快適」を届けるため
 私たちBXグループは今日も「新しい」一歩を踏みだします



編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆様にBXグループのCSRについてご理解いただくために作成しています。

経年の編集方針

- BXグループのCSR憲章をもとにした章立てで構成します。
- BXグループのCSRの取り組みについて、ステークホルダーの皆様にわかりやすくご報告することに努めます。
- BXグループの取り組みが、社会そしてステークホルダーの皆様にご評価されているかを受け止めるため、できるだけ皆様からのご意見をいただくように努めます。
- 取り組み内容をわかりやすくするために、個々の取り組みについて、担当者からの声を掲載します。
- 従業員数にはパートタイマー・嘱託社員等は含まれません。

2017年度版の編集ポイント

- (1) BXグループが考える対処すべき社会課題と、課題解決のために取り組んでいる事業領域をわかりやすく図示しました。
- (2) 文化シャッターは2015年に創業60周年を迎えました。創業当初からその時代の社会課題を解決する「新しい価値の創造」といった社会への貢献と、BXグループの成長・発展の歴史を「貢献と成長の両立」として紹介しています。
- (3) 事業テーマの一つである「防災」について、BXグループは「備え」と「対応」の両側面においてソリューション展開しています。今後発生が懸念される大規模地震に対する「備え」について、製品の共同開発や耐震試験装置導入時にご協力いただいたステークホルダーの皆様と意見を交わしました。

情報提供について

 マークがある項目は、詳細・関連情報をホームページでご覧いただけます。

報告対象期間

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)を報告対象期間としています(ただし、一部2017年度の報告も含んでいます)。
 組織・役職は2017年4月現在のものです。

報告対象組織

BXグループ全体を対象としています。
 文化シャッターのみ、あるいは特定の会社に限定される場合は、本文中にその旨を明記しています。

次回発行予定

2018年8月予定

目次

トップコミットメント	3
中期経営計画 Q&A	5
BXグループの事業	7
BXグループのCSR	9

特集 製品・サービスを通じた社会課題の解決

「新しい価値創造」への挑戦とBXグループの成長	15
-------------------------	----

震災に強い製品づくりで「安心」「安全」な社会の実現に貢献	17
------------------------------	----

ステークホルダーダイアログ 産官民の連携で実現する 大規模災害に強い製品づくり	19
---	----

成長と共に 21

お客様の満足を追求
 グループの成長・発展
 誠実な企業経営

社会と共に 25

企業市民としての社会貢献
 人道的社会貢献
 文化活動の支援
 BXグループのエリア活動

地球と共に 29

環境負荷を軽減した企業経営
 環境配慮技術・商品開発
 自主的な環境保全活動
 BXグループ環境負荷の全体像

働く仲間と共に 33

人権の尊重
 雇用の創出
 満足度の向上

コーポレート・ガバナンス 35

第三者意見/第三者意見をいただいて	37
会社概要	38

WEB ホームページのご案内

BXグループの取り組みについて、より詳しい情報をホームページ上で公開しています。

<http://www.bunka-s.co.jp/>



「ポスト2020VISION」に グループ全体で取り組み、 CSR経営を通じて持続可能な 快適環境の社会づくりに貢献していきます。

長期ビジョンである「快適環境のソリューショングループ」をさらに進化させ、社会的責任を果たし、社会からの期待に応えることで、グループが永続的に成長していく「貢献と成長の両立」をめざしています。お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様と共に、グループ一丸となって社会の持続的発展に貢献していきます。



文化シャッター株式会社
代表取締役社長

潮崎 敏彦

引き継がれる企業文化で一体感のあるグループに

文化シャッターは2015年に創業60周年を迎えましたが、その歴史はお客様目線に立った新しい価値創造の歴史でした。創業当初に掲げた社是「誠実・努力・奉仕」には、常にお客様にとってよりよい商品とサービスをご提供することで、お客様の幸せを実現し、社会と共に持続的な発展をめざす、という想いが込められています。

創業当初からお客様のニーズや社会からの要請に対して、常に商品、技術、サービスといった新しい価値の創造に挑戦し続ける企業文化は、今後も変わらない大切な財産です。

BXグループは新たにBXカネシン、BX TOSHIOを迎え、グループ全21社となりました。脈々と引き継がれてきたこの企業文化を従業員一人ひとりと分かち合い、一体感を持つことこそが、今の時代には必要なことだと考えます。

今後も未来に継承すべきBXスピリットを守り、社会へ奉仕し続けることで当社グループが持続的に成長することをめざします。

「ポスト2020VISION」の実現に向けて

当社グループは2016年に新たな中期経営計画をスタートさせました。長期ビジョンとして掲げてきた「快適環境のソリューショングループ」をさらに進化させ、当社グループの持つ資源を最大限に活用して社会課題の解決に取り組む「社会への貢献」を通じて「グループの成長・発展」を遂げることで、持続可能な社会の実現をめざす姿を「ポスト2020VISION」と位置づけました。

急速に変化していく社会情勢をよく「見て」、タイムリーな“ことづくり”を実現する総合コンサルティング力で、潜在化する社会課題に積極的に向き合うことが、当社グループのCSR経営の根幹となっています。

創業者の精神に基づいた「ポスト2020VISION」の実現に向け、当社グループが取り組むべき具体的重点項目を設定し、活動についてPDCAサイクルを運用することで、CSR経営の実効性を高めていきます。

CSRの整備と強化

当社のCSR活動は2007年にスタートしました。社会的責任を果たし、社会からの期待にお応えするため、当社では社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」を掲げ、それを実践するための「CSR行動指針」を定めています（→P11参照）。

CSR活動がスタートした当初から「成長と共に」「社会と共に」「地球と共に」「働く仲間と共に」という4憲章ごとに活動を分類し、コンプライアンスの徹底、お客様・お取引先様への取り組み、地域・社会貢献、環境負荷低減を事業に組み込んだ地球環境保全への取り組み、および従業員の幸せの実現を目的とした取り組みなど、独自のガイドラインとなる「CSR憲章」によりCSR全般を整備して活動しています。

また、持続的な企業価値向上をめざし、従来からコーポレート・ガバナンスの強化には継続的に取り組んでおり、とりわけ近年の改正会社法やコーポレートガバナンス・コード等に見られる「企業経営の透明性の確保」をさらに担保するため、監査等委員会設置会社に移行し、取締役会の監査・監督機能を一層強化する体制を整備しました。

グループ全体としてのCSR活動はまだ未熟なところもありますが、お客様、ならびにお取引先様からの引き合いや、地域社会の皆様からの温かいお声に、10年を超える堅実なCSR活動の成果というものも感じています。

今後もさらなる信頼の獲得をめざし、社会に必要とされる企業へと成長するよう、「CSR憲章」に基づき、活動を着実に展開していきます。

ステークホルダーの皆様へ

当社グループの「CSR報告書」も、今号で11冊目となりました。CSR活動のご報告を中心とした内容から、近年は事業とCSRの関係や、中期経営計画の成果、当社グループのCSVの考え方等、財務・非財務の両面を盛り込み、経営と一体となった内容をご報告する構成としています。

CSR憲章ごとの目標設定とPDCA運用を意識し、当社グループの掲げるあるべき姿に向かって着実に成長・進化する過程を、この報告書でご覧いただければと思います。お客様、お取引先様をはじめ、投資家の皆様、地域社会、協力会社の皆様、そして全グループの従業員には、本報告書をご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。



Q. 現在取り組んでいる中期経営計画について改めて骨子をお聞かせください。

2020年までの期間は経営の転換期だと捉えています。将来のBXグループのあり方について現在の事業領域にとらわれない幅広い観点で見据え、次のステップへと進化する、いわば準備期間とも言えます。特に東京オリンピック・パラリンピック前後には市場環境が大きく変化することが予想されますが、当社グループが強固でレジリエントな経営体へと成長することがこの中期経営計画の骨子となっています。

中期経営計画の内容 (2016-2020)

基幹事業売上高	1,279億円 (売上比率 64.0%)
注力事業売上高	602億円 (売上比率 30.1%)
連結売上高	2,000億円

基本テーマである「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現に向け、事業領域の拡大による企業価値の向上をめざしています。

「基幹事業を伸ばしつつ、注力事業を成長させ、次世代経営へ向けた進化をめざす」ことを具体的な施策として、創業当初から当社グループの発展を支えてきた主にシャッターとドアを中心とした既存事業の強化・拡充を図り、同時にグループのさらなる発展を担う注力事業を成長させることを、将来に向けた成長戦略としています。

基幹事業	シャッター、ドア、パーティション、エクステリア
注力事業	エコ・防災事業、ロングライフ事業、海外事業、メンテナンス事業、特殊建材事業、+α

特に、2015年度までの中期経営計画でも事業テーマとして掲げていた「エコと防災」については、引き続き当社グループが社会的使命を果たすために注力すべき事業と捉えており、防災関連製品の拡充やステークホルダーとの協働事業により、BCP対策を含めた災害に対する「備え」と災害発生時の被害を最小限に抑えるための「対応」の2つの側面におけるソリューションの展開に注力しています。

海外事業では当社の生産拠点であるベトナムを中核としたASEAN(東南アジア)への販路拡大、現地有力企業との資本提携によるシナジー効果や当社ブランドの浸透にも期待しています。

創業まもなくして業界初のアフターサービス制度をスタートさせた歴史からも、義務化された防火設備の点検報告制度への対応を中心としたメンテナンス事業は、まさに本業を通じて社会的責任を果たすべき重要な注力事業です。

その他、住宅のリフォームやビルのリニューアルを手がけるロングライフ事業、特殊仕様ニーズに的確にお応えする「特殊建材事業」を注力事業としています。

Q. 5ヶ年計画の中期経営計画における2016年度の位置づけをお聞かせください。

初年度に当たる2016年度は、前年まで推し進めてきた10年間にわたる長期経営計画で実施してきた事業活動を基盤として、いわば長年まいってきた種に実を結ばせるための仕掛けづくりに注力しました。また、未来に向けた仕掛けづくりとして挙げられるのは、積極的なM&Aの推進です。新たな事業領域への拡大に向け、今後のシナジー効果に期待しています。

Q. 進捗状況、および成果についてはどうですか。

注力事業を成長させることで、次世代経営へ向けた進化をめざしています。

2016年度は特に「特殊建材事業」と「メンテナンス事業」に大きな成果がありました。

メンテナンス事業については、防火設備の定期検査、および報告制度の法制化に対応した体制を強化しています。急務として進めている検査員とメンテナンス要員の確保・育成や、作業効率の向上等は依然として大きな課題ではありますが、グループ会社である文化シャッターサービスとの連携により、2016年度は約177億円の売上げ、対前年比で107%となりました。

特殊建材事業につきましては、特殊仕様製品のご要望にお応えするため、特殊技術を保有する提携企業との連携や、技術の標準化・商品化を推進し、新市場の開拓にも積極的に取り組みました。BXグループならではの「お客様をみる」視点と、お客様の潜在化したご要望を顕在化するコンサルティングセールスが功を奏し、2016年度は約6億円の売上げ、対前年比738%と大きな成果をあげました。

Q. 初年度を終えて見えてきた対処すべき課題とはなんですか。

当社グループが社会と共生しながら成長し、急速な変化にも対応しうるレジリエントなグループとなるために

は、人材力の強化は必須です。絶えず変化する社会課題を解決するために当社グループに何ができるか、自分の範囲外であっても解決に向け率先して働きかけることが重要です。徹底的なお客様目線による高い提案力によってこれまで以上にお客様と社会から必要とされる商品・サービスを提供するために、商品開発はもとより、全ての分野において教育、研修に注力するとともに、従業員が自発的に成長できる人事制度の拡充と環境の整備を進めていきます。

また、インターネットを利用した商品・サービスの提供といったインターネット販売への参入による新たな販売チャネルの開拓など、将来を見据えた取り組みも開始しています。

IoTの発展により、「モノが情報を発信する」時代がすぐそこまで来ています。当社グループがこれまで築き上げてきた技術といかに融合させるか、これからの大きな課題といえるでしょう。

Q. これからの展望についてお聞かせください。

まず中期経営計画の2年目となる2017年度は、「成長戦略の構築」の基本方針のもとで、従業員一人ひとりが着実にPDCAを回すことで、生産性・効率性の向上に取り組むと共に、先に述べた「基幹事業」の強化と「注力事業」の発展を図ります。

ここ数年でBX西山鉄網をはじめ、建築金物のBXカネシンと木造構造計算のBX TOSHOを新たにグループに迎えたことで「進化する快適環境ソリューショングループ」の経営ビジョンをますます具現化し、これまで培ってきたグループとしての総合力を駆使して地域課題や社会課題に積極的に取り組んでいくことにより、企業価値の向上をめざします。

もちろん当社グループだけで成し得ることにには限界があります。産官民を越えたさまざまなステークホルダーの方々と連携し、お知恵を借りながら当社グループの持てる資源を最大限に活かし、高いシナジー効果を発揮することで、社会の持続的発展に貢献していきます。

BXグループの事業

BXグループは総合建材メーカーとして、主力のシャッターやドアの生産販売にとどまらず、止水事業や太陽光発電システム事業などの幅広い分野で事業を行っています。
グループ各社の強みを融合させた総合力で、さまざまなご要望にお応えする製品・サービスを提供しています。



BXは、当社グループが常に未知への挑戦を続け、進化していく姿を示すシンボルです。

Bは文化シャッター全グループを、Xは未知数・無制限・掛け合わせる力を意味する「進化」を表しています。「BXグループ」は今日まで培ってきた技術・製品を基盤とし、さらに創造力や技術力、人間力を掛け合わせ未来に向かって進化し続けます。また、スカイブルーは、当社グループがめざす「快適環境のソリューショングループ」として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりイメージしたものです。

事業領域

シャッター 関連製品事業	軽量シャッター、重量シャッター、オーバースライディングドア、窓シャッター、電動開閉機などの製造、販売、施工を行っています。
建材 関連製品事業	住空間、店舗、ビルなどの建築物におけるエクステリア建材、ドア、パーティションなどの製造、販売、施工を行っています。
サービス事業	全国130ヶ所のサービスステーションで各種シャッター、金属製ドアなどの修理・点検業務などを行っています。
リフォーム事業	首都圏を中心に24店舗を展開し、スピード、提案力、施工力を活かしたリフォーム事業を行っています。
その他事業	太陽光発電システムおよび止水事業、注文家具の製造販売のほか、損害保険代理業、旅行代理業などを行っています。

グループ会社一覧

シャッター関連

- BX 新生精機株式会社
- BX 沖縄文化シャッター株式会社

- BX 西山鉄網株式会社
- BX 文化工芸株式会社
- BX カネシン株式会社

その他

- BX あいわ株式会社
- BX TOSHO 株式会社

建材関連

- BX テンパル株式会社
- BX ケンセイ株式会社
- BX 文化パネル株式会社
- BX 中央工業株式会社
- BX 鐵矢株式会社
- BX 東北鐵矢株式会社
- BX ティアール株式会社
- BX 朝日建材株式会社
- BX 紅雲株式会社

サービス

- 文化シャッターサービス株式会社

リフォーム

- BX ゆとりリフォーム株式会社

海外

- BX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.
- BX BUNKA TAIWAN Co.,Ltd.

関連会社

- 文化シャッター秋田販売株式会社
- 文化シャッター高岡販売株式会社
- 株式会社エコウッド
- 不二サッシ株式会社
- Eurowindow Joint Stock Company

対処すべき社会課題

ライフ・イン

市場ニーズに適した製品やサービスを提供する「マーケット・イン」の発想をさらに進化させ、お客様の生活全般を捉えた感覚や視点で、必要とされる製品やサービスを提供します。

ライフロング・パートナーシップ

製品やサービスを「安心」「安全」かつ末永くお使いいただき、お客様との持続的な信頼関係を構築していくことで、広く社会に対して持続的に貢献していきます。

ユニバーサルデザイン

バリアフリー対応をはじめ、快適な環境をサポートする製品など、ユニバーサルデザインの視点で多様なニーズにお応えします。

防犯

確かな防犯性能に加え、利便性や快適性、デザイン性までも追求した多様な製品を取り揃えています。



「CPマーク」は防犯性能の高い建物部品であると認定された商品・部品に貼付、表示される共通標準です。

中期経営計画における注力分野

エコ

生産・物流施設向け、住宅向けともに多岐にわたり、環境に配慮した製品やサービスを提供しています。



「エコマーク」はライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベルです。

防災

防火・防煙性能を有した製品やゲリラ豪雨などによる浸水被害を防ぐ製品を取り揃え、企業のBCP対策を支援します。



ロングライフ

住宅のリフォームやビルの耐震改修など多様なニーズに対応した幅広いリフォーム・リニューアルサービスを提供しています。



メンテナンス

24時間365日対応のアフターサービス体制で、経験と実績を積んだカスタマーエンジニア(CE)が責任を持って対応します。



海外

ASEAN(東南アジア)を中心に販路を拡大し、現地提携企業とのシナジー効果とBXブランドの浸透を図っていきます。



特殊建材

グループ会社をはじめ特殊技術を保有する提携企業との連携により特殊仕様のニーズにお応えするソリューションを提供しています。



BXグループのCSR

BXグループでは、「進化する快適環境ソリューショングループ」を基本テーマに掲げ、事業活動を行っています。当社グループの社是・経営理念には、「お客様の幸せ」という創業者の思いが込められており、この思いを従業員と共有することで、社会と共に持続的に成長できるよう、BXグループはさらに進化し続けます。

活動の拠り所

「『お客様の幸せ』のために、常によりよい商品を提供することで社会のお役に立つ」という、奉仕の精神こそが私たちBXグループのCSRの礎となっています。

創業当初から買ってきたお客様目線のものづくりの精神と技術力で、お客様の暮らしに「安心」「安全」を提供する使命と役割を果たしてきたことが、今のBXグループの基盤をつくり、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様から信頼を得ることにつながっています。

中期経営計画 (2016-2020)

BXグループは、2020年までの5ヶ年を見据えた新たな中期経営計画を策定し、2016年度より基本テーマ「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現に向けた取り組みをスタートさせました。新中期経営計画の初年度は、これまで培ってきた革新的な取り組みをもとに、受注拡大を柱とした「新たな挑戦」を推し進めることで、グループ一丸となって目標達成に取り組みました。

社 是

「誠実」
心のふれあいである。
真心のふれあいで信頼は生まれる。

「努力」
創造する行為の持続力である。

「奉仕」
自発的な行為、行動でお客様や社会のお役に立つこと。
お客様の立場に立った思いやりの心であり、
いたわりの精神である。

経営理念

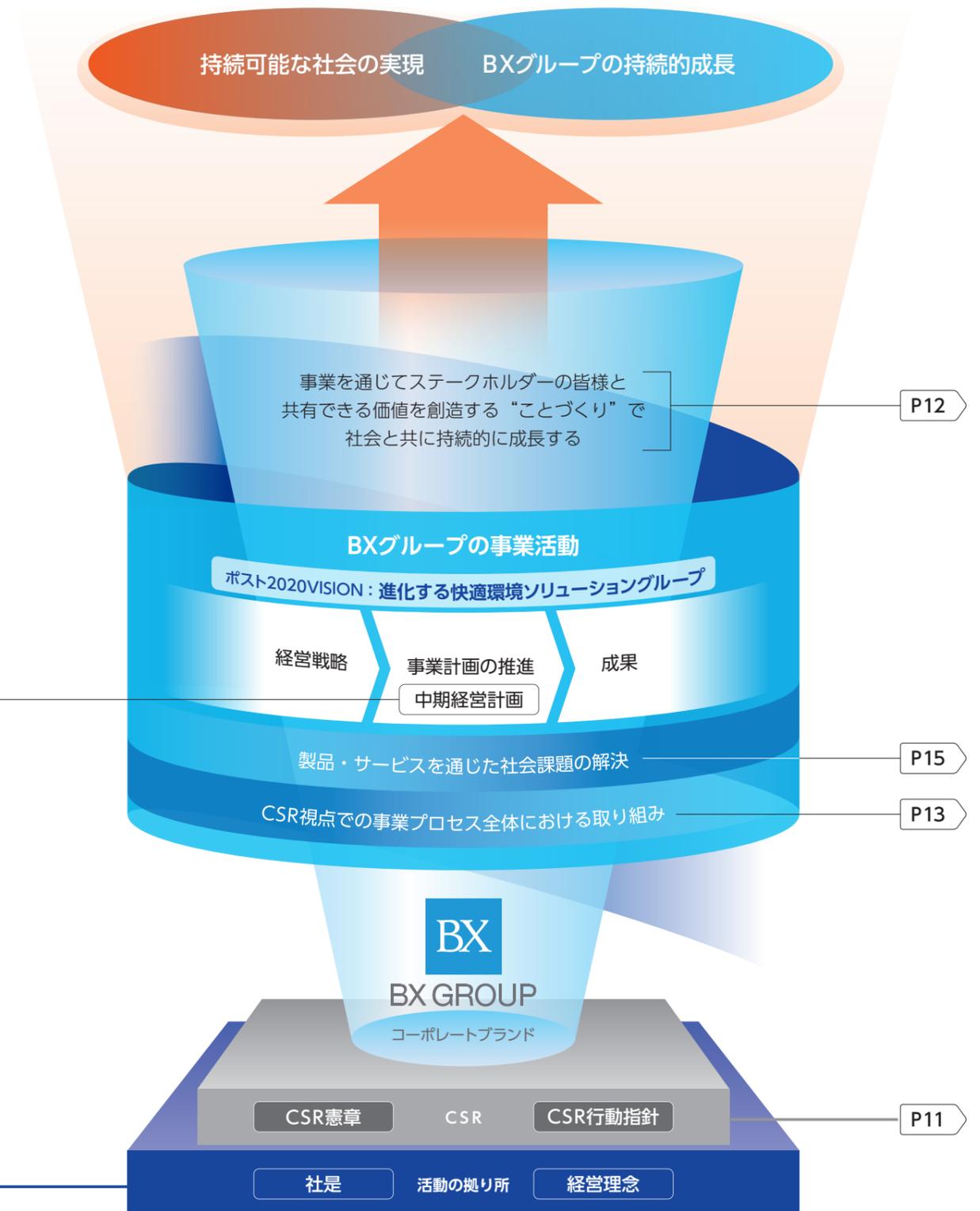
私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

ポスト2020VISION

**進化する
快適環境ソリューショングループ**

中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

1. 「基幹事業」の強化・拡充及び「注力事業」の体制強化
2. “ことづくり”の発想に基づくソリューションの提供
3. ストック市場への対応強化
4. 海外事業の強化・拡充
5. 人材育成の強化
6. 経営基盤の強化



「CSR憲章」と「CSR行動指針」

BXグループは、社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」と、それを実践していくための「CSR行動指針」を定めており、従業員一人ひとりが共感し、自ら実践することおよび、コンプライアンスを徹底することにより、社会から信頼される企業をめざしています。

また、社会の課題やニーズを踏まえた上で、「CSR憲章」の4テーマごとに年度の目標を定め、活動を実践、評価しています。

CSR憲章 (上段)

CSR行動指針 (下段)項目

成長と共に P21

公正で誠実な事業活動を通じ、お客様から満足され信頼される商品・サービスを提供し、快適環境の創造を基本として、BXグループの成長を追求します。

- お客様の満足を追求
- グループの成長・発展
- 誠実な企業経営

社会と共に P25

人々の心を豊かにする活動に参加、支援することにより、良き企業市民として、社会の発展に貢献します。

- 企業市民としての社会貢献
- 人道的社会貢献
- 文化活動の支援

地球と共に P29

全ての事業を通じ、エネルギーの省力化に努め、地球環境の保全に自主的に取り組みます。

- 環境負荷を軽減した企業経営
- 環境配慮技術・商品開発
- 自主的な環境保全活動

働く仲間と共に P33

働く仲間の個性と創造性を尊重し、一人ひとりの満足と成長をめざします。

- 人権の尊重
- 雇用の創出
- 満足度の向上

CSR推進体制

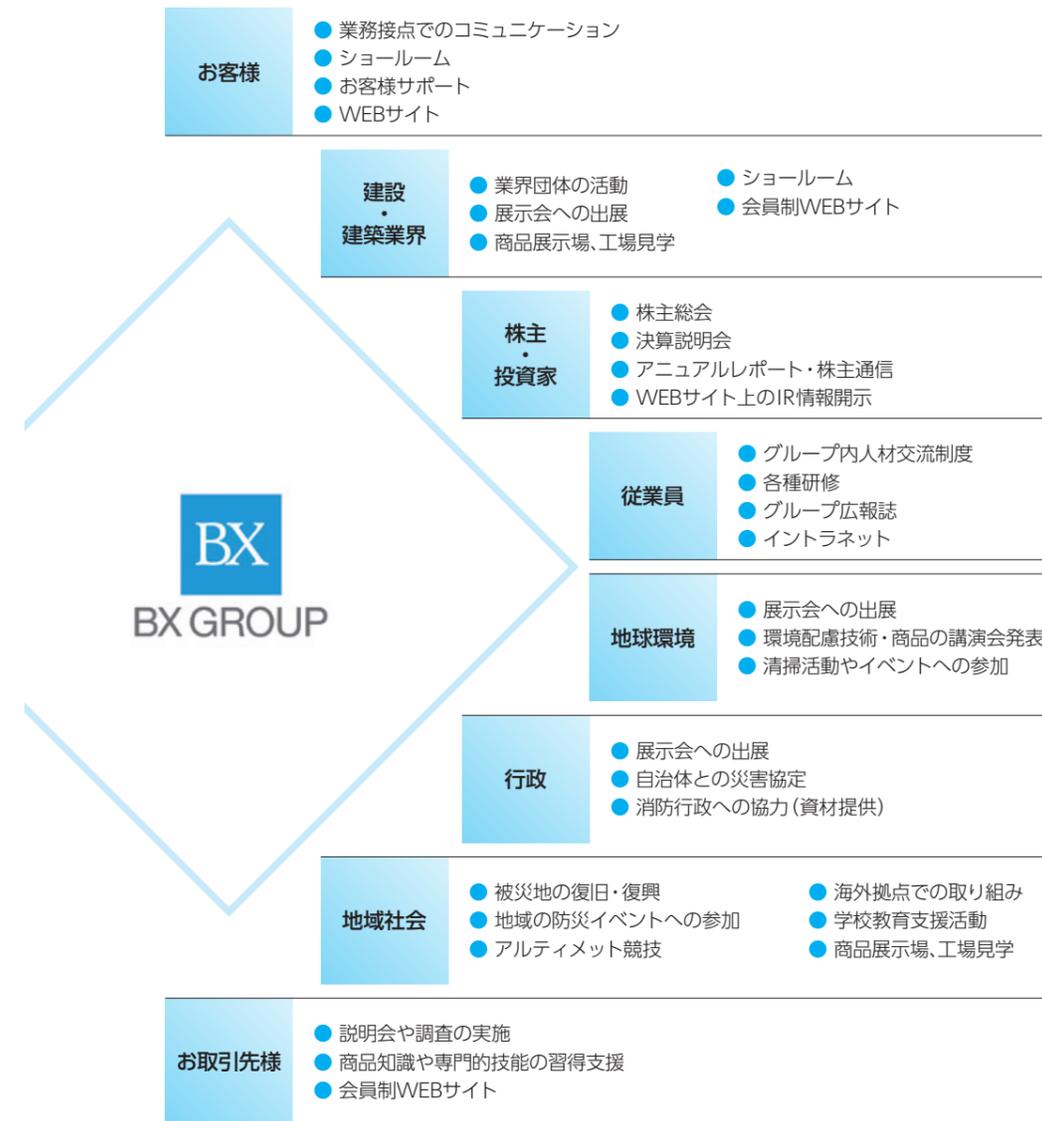
業務担当役員(常務執行役員)を委員長、CSR統括部長(執行役員)を副委員長、CSR4憲章委員長を委員とする「CSR委員会」を設置し、活動方針を審議・決定しています。決定した方針に沿って、CSR4憲章委員会とCSR統括部が中心となってテーマごとに活動を推進しています。



ステークホルダーとの主なコミュニケーション

BXグループは、お客様に新たな感動や気づきを呼び起こし、新しいライフスタイルを提供する高付加価値の創造をめざしています。お客様の生活に寄り添い、感性を持って「見る」こと。そのために常に多様なステークホルダーの皆様との対話を重ね、ご要望やご期待に応えているかを検証する、質の高いコミュニケーションを実践しています。

これらの機会を通して、皆様にBXグループのめざすべき姿やそれを実現させるための取り組みについてご理解、ご協力をいただくとともに、皆様の声に真摯に耳を傾け、事業活動に反映させています。



展示会出展ブースの様子



グループ内人材交流制度(海外派遣制度)



子どもエコクラブ全国フェスティバル2017



「防犯・防災」サイト: マモライフ

<http://bx-life.com/>



CSR視点での事業プロセス全体における取り組み

BXグループは、開発から資材調達、販売、製造、物流、施工、メンテナンスまで、一連の事業プロセスにおいて、それぞれの分野での重点課題を掲げ、具体的施策として取り組むことで、プロセス全体の品質向上を図っています。

またあらゆるプロセスで社会や環境に与える影響に配慮し、効率的なバリューチェーン・マネジメントを強化することで、社会からの期待と要請に応えます。

バリューチェーンにおける課題と2016年度の主な取り組み

- 課題**
- 「エコ」「防災」「新技術」をキーワードとした新商品の開発
 - お客様目線の「ことづくり」を反映した進化した商品開発
 - 環境配慮設計の推進

主な取り組み

消費電力の削減に寄与するため、省エネ、電源レスや断熱、遮熱、通風、換気性能のある商品の充実化を図っています。また近年、経済産業省が推奨しているZEB*、ZEH*実現のための必須アイテム「BEMS」「HEMS」と、当社製品との連携を図ることで、従来の「あける・しめる」製品から、「お客様に楽しい生活空間を提供できる」製品への転換を進めています。当社はお客様目線で高い付加価値を追求する「ことづくり」の発想のもと、商品開発を進めています。

* ZEB: ネット・ゼロ・エネルギー・ビル、ZEH: ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

- 課題**
- お客様目線の総合提案
 - 課題解決に向けたコンサルティングセールス

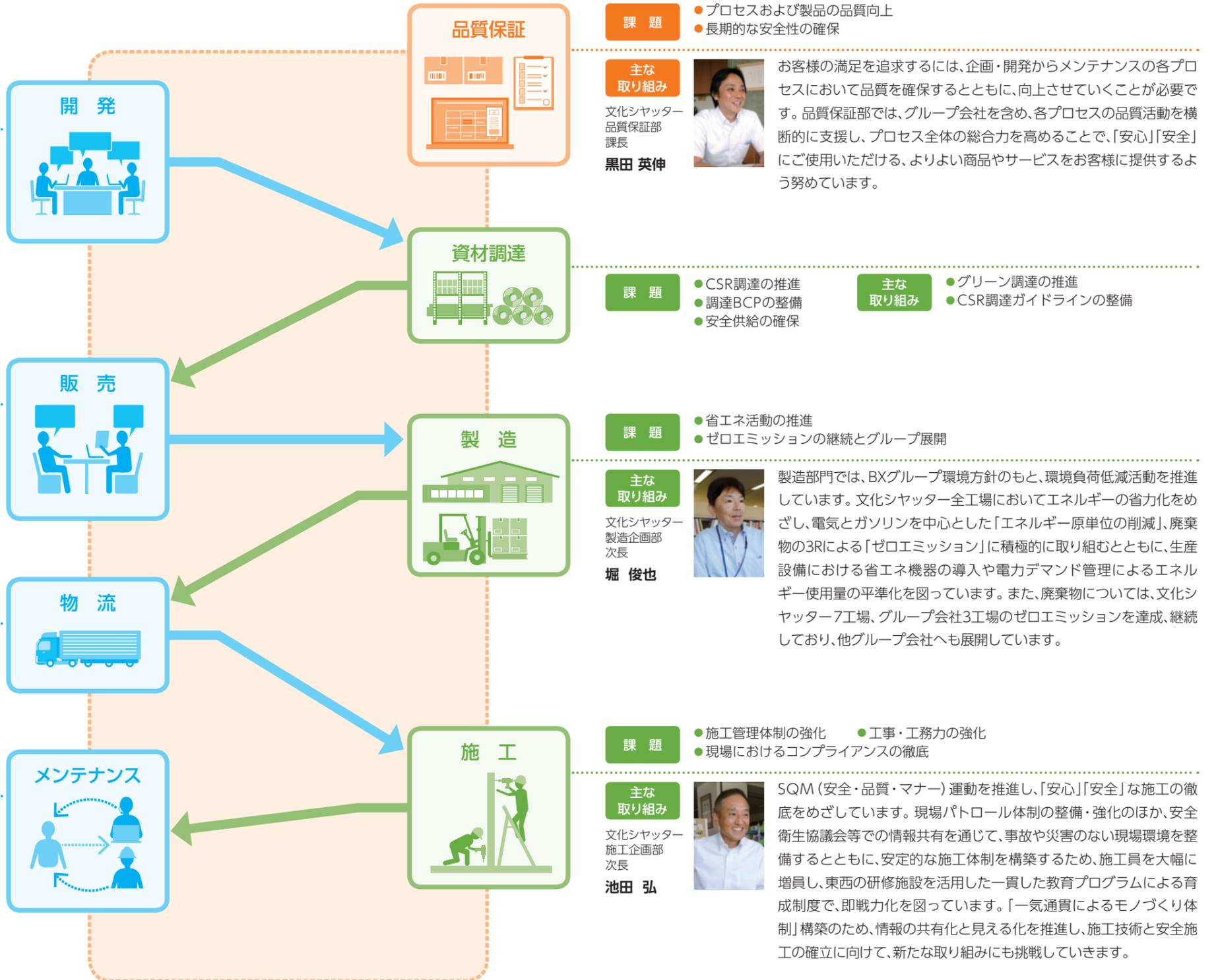
主な取り組み

「お客様との架け橋」としての役目を強く意識しています。開発部門との情報交換から、製造、施工、保守点検を含めたメンテナンスへとつながる工程の一つとして、お客様の潜在的な要望をくみ取り、わかりやすく具現化する総合提案により、さらなるお客様満足の向上をめざしています。販売職はお客様に一番近い立場から、地域によって異なるお客様のお困りごとを発掘し、BXグループとして課題解決するための新たな価値創造にも貢献できると考えています。

- 課題**
- 安全な運行
 - 物流の効率化
- 主な取り組み**
- エコドライブの推進

- 課題**
- 商品知識・技術力の向上
 - お客様目線の提案力
- 主な取り組み**
- 修理・メンテナンス品質の確保

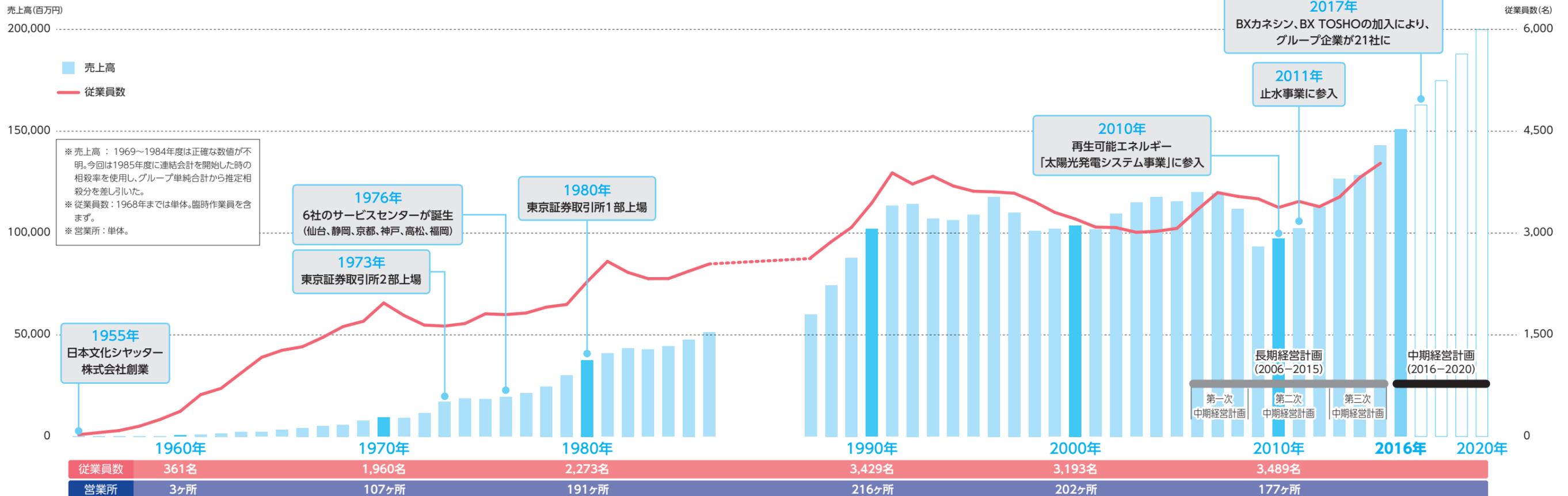
日頃から心掛けているのは「お客様が望む以上のサービスを提供すること」です。ただ不具合箇所を修理するのではなく、「安心」「安全」はもとより、お客様がより快適にお使いいただけるようご提案しています。お困りごとがあれば直接お話しをうかがい、当社のサービスをどう駆使すれば解決に導けるかを、お客様とコミュニケーションを重ねながらご納得いただける結果を探ります。お客様の生活に寄り添い、安心して未永く製品をお使いいただくことが当社の使命だと考えています。



「新しい価値創造」への挑戦とBXグループの成長

BXグループは創業以来、常にその時代の社会課題と向き合い、価値創造への挑戦を積み重ねてきました。社会課題の解決に取り組む姿勢がグループを成長させる礎となり、今日のBXグループへと発展させました。今もなお、気候変動をはじめ、少子高齢化、資源・エネルギー需要の増大など、課題は山積みです。BXグループは、このように絶えず変化する社会課題により深く関わり、解決に向けた取り組みを追求することで、「快適環境のソリューショングループ」として進化し続けます。

BXグループの成長



時代における「新しい価値創造」

創業から1960年代

1958年

■ 業界初アフターサービススタート

お客様に安心して使っていただくためには販売後の保守・点検が不可欠と考え、創業から3年後の1958年、業界初のアフターサービス制度を導入しました。



■ 鋼製雨戸「テッター」誕生

当時の住宅雨戸は木製または木枠タン張りが常識で、朝晩、一枚一枚手で開閉していました。1958年文化シャッターは、操作が簡単な上に防犯・防火・耐風に優れた鋼製雨戸「テッター」を業界に先駆けて開発。テッターは爆発的にヒットし、鋼製雨戸市場が拡大しました。



1970年から1980年代

1974年

■ 防火・防煙シャッターの開発

1972年の大阪千日デパート火災を契機に、建築物に防火機能の強化を求める声が高まり、シャッターには防火性ととも遮煙性が求められるようになりました。文化シャッターは1974年、防火・防煙シャッターを開発し社会の要請に応えました。



1982年～

■ アフターサービス体制を強化

1982年に24時間365日サービス体制を確立するとともに、1986年にはサービスカーに「カー無線」を導入。文化シャッターは、お客様に「安心」「安全」かつ「永くお使いいただくこと」に注力してきました。



1990年代

1991年

■ 業界初、耐火試験炉を完成

シャッター、ドアなどは建築基準法に基づく防火性能を確認するための認定試験が必要ですが、その当時、試験所が全国に2ヶ所しかなかったため多くの時間を要しました。文化シャッターは、1991年業界で初めて耐火試験炉を設置し、認定のための試験を自社でできる体制を構築。耐火性の高い製品開発の迅速化につなげました。



1998年

■ 業界初、ISO認証を取得

住宅用窓シャッターの主力工場である掛川工場が、1998年、業界で初めて品質マネジメントシステムの国際標準規格ISO9002の認証を取得し、その後、他の主幹工場も認証取得。製品品質の維持・向上につなげています。

2000年代

2002年

■ 防犯性能の高い製品をラインアップ

2002年、戸建て住宅やマンションへの侵入盗が急増した社会情勢に対応して、官民合同会議が設置されました。官民合同会議はより防犯性能の高い建物部品の開発・普及のあり方について検討を重ね、防犯性能試験を実施。その結果に基づいて2004年に公表された「防犯性能の高い建物部品目録」には、BXグループとして計7製品76タイプが搭載されていました。また、官民合同会議は防犯性能の高い建物部品として認定した製品に貼付する「CPマーク」を制定。BXグループでは、犯罪の抑止効果として、優良防犯建材「BAシリーズ」にCPマークを貼付しています。



2010年以降

2010年

■ 再生可能エネルギー「太陽光発電システム事業」に参入

BXグループでは、建材メーカーとして培ってきた金属加工技術と全国展開するアフターサービス体制を活かし、2010年に太陽光発電システム事業に参入しました。設計・施工から設置、メンテナンスに至るまでを一貫して請け負うことでお客様に安心して導入いただける環境を整えています。



2011年

■ 浸水から社会を守る止水事業に参入

都市部を中心にゲリラ豪雨などによる浸水被害が社会問題となる中、BXグループは2011年業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水製品を開発、発売。使い勝手の良さなどが受け入れられ、自治体や企業のBCP対策に、また一般のお客様の浸水対策として採用いただき、「超」モノづくり部品大賞(生活関連部品賞)などの評価もいただいています。今後も社会のニーズを捉えた止水製品を広く普及させることで社会の課題解決に貢献していきます。



震災に強い製品づくりで「安心」「安全」な社会の実現に貢献

大規模な災害時でも確実に機能する「安心」「安全」な製品づくり

東日本大震災や「平成28年熊本地震」などの、私たちが経験したことのない大規模な地震によって甚大な被害が発生し、BXグループの製品も少なからず影響を受けました。「エコと防災」をキーワードに事業に取り組むBXグループとしては、大規模地震発生時に求められる開口部製品が果たすべき役割を重点課題と捉え、このほどライフイン環境防災研究所に「耐震試験装置」を導入しました。大規模地震が発生してもBXグループの製品が確実にその機能を発揮し、皆様に「安心」「安全」にご使用いただくために、そして、今までにない耐震機能を備えた高付加価値ソリューションの開発に、この耐震試験装置を活用していきます。

また、今後発生が懸念されているような未曾有の大規模地震に対しても、被害を最小限に防ぐためのソリューション開発は急務であり、これまで以上に開口部が受けるあらゆる影響を想定した高機能の製品づくり＝「ことづくり」をめざし、さまざまな知見をもったステークホルダーの皆様と協働で開発を進めています。

BXグループはこれからも、BCP対策を含めた、いざという時のための「備え」と災害発生時の被害を最小限に抑えるための「対応」、両面において確実に機能を発揮する製品・サービスの提供を通じて、災害に強い社会の構築に貢献できるよう努力していきます。



文化シャッター 品質保証部
ライフイン環境防災研究所
所長

高木 利久

ライフイン環境防災研究所

「安心」「安全」の追求、時代に即応する開発のスピード化、生活者視点による製品づくりなどをテーマに、生活者の視点で商品の評価・検証までを行うことができる総合試験・検証施設です。



耐震試験装置

実際の構造物に直接地震動を作用させる3次元大型振動実験装置です。

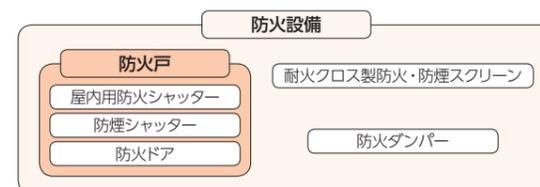


一例として 想定以上の大地震でも確実に機能する防火戸の共同開発

防火戸（ドア）は建築基準法に規定される防火設備*の一種で、火災被害の防止に重要な役割を果たします。常時閉鎖型と随時閉鎖型があり、随時閉鎖型の場合、通常時は全開状態で人の通行が可能ですが、火災時には閉まることで炎の貫通を防止するように設計されています。ところが2011年の東日本大震災では建物のゆがみによって防火戸が閉まらない事態が発生し問題となりました。

そこでBXグループではメーカーとしての社会的な使命を果たすために、東日本大震災時に被害状況を調査した日建設計と共同で、想定外の大規模震災にも強い製品づくりを進め、今回、新たに開発した変位吸収機構を備えた防火戸を開発しました。震災時に戸枠が大きく変形した場合、その変形量に合わせて変位吸収機構が動くことで確実に閉まり、かつ、必要時には開きます。BXグループはこれからも震災に強い製品づくりを進め、「安心」「安全」な社会づくりに貢献していきます。

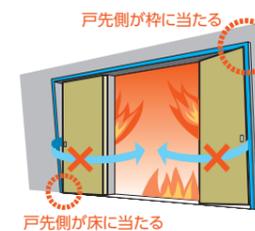
* 防火設備の種類



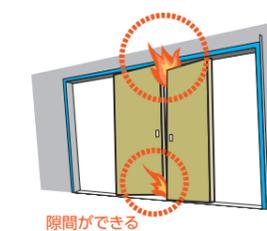
想定以上の地震が発生しドア枠が大変形した場合

一般的な防火戸 壁が傾くことで防火ドア枠が斜めに変形し扉が閉まらないことが予想される

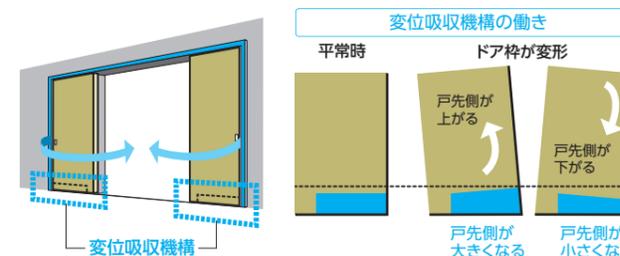
予想1：扉が開閉できず延焼



予想2：扉の隙間から延焼



新開発の防火戸 壁が傾くことで防火ドア枠が斜めに変形するが、「変位吸収機構」が動くことで扉の先側が上下しても確実に閉まる



ステークホルダー
ダイアログ

産官民の連携で実現する 大規模災害に強い製品づくり

「進化する快適環境ソリューショングループ」をめざし、「エコと防災」をキーワードに事業を展開するBXグループでは、近年多発する未曾有の大規模災害への対策を最重要の社会課題であると考え、グループ丸となって防災ソリューションの開発・拡充に取り組んでいます。今回のダイアログでは、懸念される大震災に備えた開口部製品の開発を取り上げながら、社会的課題やメーカーの責任について、関係者の皆様と意見を交しました。



ダイアログ開催概要

開催日：2017年6月12日（月）
場 所：文化シャッター株式会社 会議室
社外参加者：3名
一般財団法人建材試験センター 室星 啓和様
西松建設株式会社 高井 茂光様
株式会社日建設計 土屋 孝司様
BXグループ参加者：2名
文化シャッター株式会社 日高 和幸
BX鐵矢株式会社 今林 哲也
※ 所属・役職は開催当時のものです。

耐震実験設備の導入



文化シャッター株式会社
品質保証部
ライフイン
環境防災研究所
課長
日高 和幸

日高 文化シャッターは創業以来、防犯・防火・防煙等の商品やサービスを通じて「防災」に取り組み、社会課題の解決に貢献してきました。近年、多発するゲリラ豪雨の被害対策として「止水事業」にいち早く参入し、「誰でも・簡単に・素早く」をコンセプトに多数のソリューションを開発し提供しています。また、当社では新たに耐震試験装置を導入しました。地震は揺れの特性によって、シャッターやドアなどの非構造部材が受ける影響が大きく変わります。そのため地震の動きを再現する3次元振動台を用いて製品の耐震性能を検証

し、蓄積したデータを開発に反映していくことで、より「安心」「安全」な製品づくりを進めていきたいと考えています。

高井 西松建設では阪神・淡路大震災を教訓として、最新技術に関わる実験施設の充実が必要であると考え、当時としては最大級の振動台を導入し、技術開発に活かしてきました。今回、文化シャッターさんから耐震試験装置導入のご相談があり、振動台を支える基礎部分の施工を通じて、ご助言させていただきました。

室星 建材試験センターは第三者証明機関として、建設材料、建設部材、建築設備に関わる試験をはじめ性能評価、製品認証などを行っています。その中で私の所属する部署では、シャッターやドアなどの構造試験を行ってきました。東日本大震災や熊本地震といった大きな震災の発生により、耐震関係の業務が多くなりました。今後も検証ニーズ

の増加が予測されるため、文化シャッターさんの振動台導入は時機を捉えた意義のある取り組みであると思います。

震災に対する 非構造部材の課題



西松建設株式会社
技術研究所
建築技術グループ
首席研究員
高井 茂光 様

高井 東日本大震災の時は現行の耐震基準が機能して、構造部材の被害は比較的軽度でした。しかし、避難所となる予定の体育館で天井が落ちて使用できなかったなどの事例があり、建物の機能を保全するためには非構造部材が重要課題の一つであるとの認識が広がっています。



株式会社日建設計
技術センター
ファサード
エンジニアリング室
土屋 孝司 様

土屋 ビルなどの建物は古ければ耐震補強することで構造的な健全さを持っていますので、課題はやはり非構造部材ではないかと思います。建物が倒れなくても、外装が落ちたり内装が潰れたりする問題があります。ところが、建築業界では非構造部材の耐震性能について踏み込んだ議論がなされておらず、建築建設の中で処理しきれない課題も多いのが現状です。

室星 東日本大震災後、国土交通省などにより非構造部材の試験方法や評価方法が標準化され、それをもとにした開発の流れができてきました。今後、シャッターやドアの耐震に関する試験・評価の標準化の動きが出てくるのであれば、私たちも試験方法などの検討には積極的に協力していきたいと思っています。

日高 そういった意味では、今回ライフイン環境防災研究所に導入した耐震試験装置を活用して、試験・評価の標準化の動きをデータの面で後押しできるようにしていきたいと思っています。

大震災に備えた 防火ドアの共同開発

土屋 日建設計では東日本大震災後に被害調査を行いました。建物の安全性確保には非構造部材の耐震性能も重要であることがわかりました。そこで、震災に強い建物づくりをめざして、内外装材などのメーカーに耐震性能に優れた製品の共同開発を呼びかけました

が、その中の1社が文化シャッターさんでした。

日高 当社でも東日本大震災後にシャッターやドアの被害を調査しましたが、防火ドアが閉まらない、開かないなどの状況が見られました。防火ドアは、地震発生後に閉まることで火災の延焼を防ぎ、人が避難する際には開かなくてはなりません。従来の防火ドアは、地震発生時でもある程度のドア枠の歪みなら充分機能を果たしますが、大規模な震災時であってもきちんと機能を発揮する防火ドアの開発が喫緊の課題であると考え、グループ会社のBX鐵矢と共に共同開発に臨みました。

土屋 今回の共同開発で私たちは建築的な視点から建物全般についてアドバイスさせていただきましたが、ドアに関しては、大地震を想定して建物本体構造の変形量を大きく設定し、それを開発と件として提示させていただきました。

BX鐵矢株式会社
生産管理課
係長
今林 哲也



今林 ドア枠が大きく変形すると、扉がドア枠や床面にぶつかり開閉できなくなります。それを解消するためにドア枠の開口を大きくすると、扉が閉まっても扉と上枠の間に隙間ができ、また床面との隙間が規定より大きくなり、火が回ってしまう。そこで、今までなかった「変位吸収機構」という装置を開発したことで、課題を解決することができました（→P18参照）。

土屋 今回の開発では、例えばボードの変形とドアの変形をどう考えるかなど、

他部材の納まりや工法を正しく反映させることが重要でしたので、私たちの知見も活かされたかなと思っています。

日高 設計会社さんだけではなく、業界全体で知見を出し合うことが必要だと感じています。そのような機会があれば、進んでチャレンジしたいと思います。

BXグループへの 期待・要望



一般財団法人
建材試験センター
中央試験所構造グループ
統括リーダー
室星 啓和 様

室星 今回導入された振動台は、非構造部材の振動特性を検証する上で十分な性能を有しているのので、大いに活用して試験・評価の標準化に取り組んでいただければ、私たちの協力できる機会も増えるかと思っています。また今年、BXグループには耐震に力を入れている会社も加わりましたので、シナジー効果が発揮されることを期待しています。

高井 今後、建物機能の維持管理、あるいは震災時の被害把握などにおいて、センサー技術を含めIoTが活用される時代になると予想されますが、シャッターやドアなどにも活用していただき、より「安心」「安全」な社会づくりに貢献していただきたいと思っています。

土屋 地震のほかにも、津波や多発している竜巻への対応も課題です。津波では水圧に耐え得るドアの開発、竜巻では突風で物が衝突しても飛来物が室内に飛び込んでこないシャッターなど、建築建設と一緒に課題に取り組んでいって欲しいと思います。

ダイアログを受けて



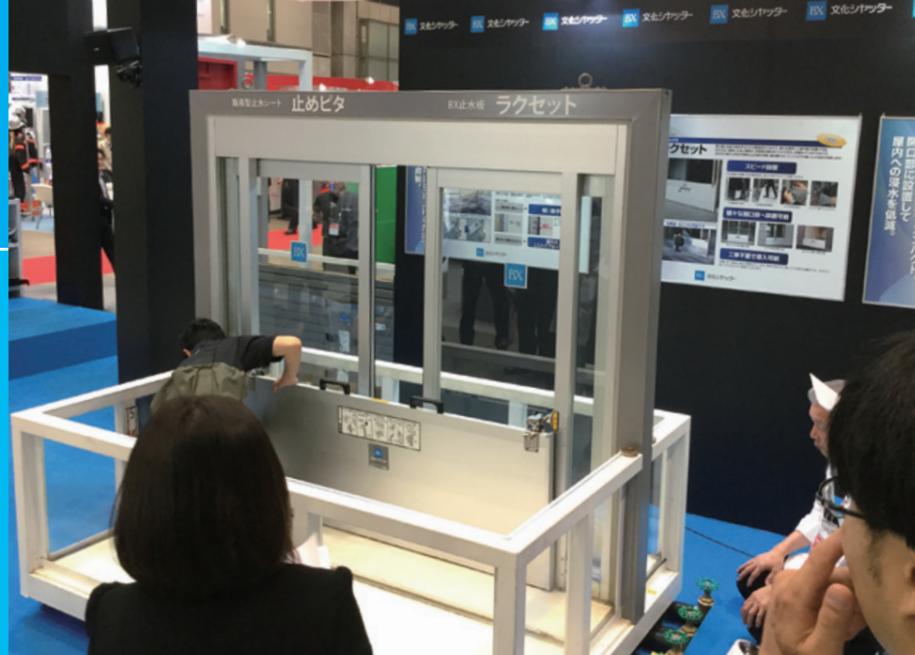
今回のダイアログで改めて、業界の枠を超えて産官民による協働事業の可能性を感じることができました。今後はステークホルダーの皆様のお力をお借りしながら、企業単独ではなし得ないソリューションを生み出し、社会課題の解決につなげていきたいと思っています。

CSR統括部 執行役員部長 松山 成強

成長と共に

お客様の生活全般を把握することで本当に必要とされる製品やサービスを提供する「ライフ・イン」と、未永く「安心」「安全」にご使用いただくことで、お客様との信頼関係を築いていく「ライフロング・パートナーシップ」。

事業の根幹に息づいてきたこの二つのコンセプトは今後も継承すべき当社グループ不変のDNAとなりました。BXグループは、お客様に「安心」「安全」を提供できる「快適環境のソリューショングループ」として今後も進化を続けていきます。



「危機管理産業展2016」止水製品の実演ブース

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○目標達成 △要改善)	2017年度目標
「ライフ・イン」の発想によるエコ・防災事業の強化	●「営業が商品を創る」プロジェクト ●地域との共生～文京区長との対談～	グループ総合力を駆使した基幹事業の基盤強化
ストック市場に対するメンテナンス事業の強化	●設計・工務革新プロジェクト ●防火設備の法定点検推進	注力事業の成長を目的とした「エコ・防災」関連事業の推進
グループシナジーの最大化とグループコンプライアンスの向上	●BXカネシン・BX TOSHOをグループ会社化 ●コンプライアンスの徹底	グループコンプライアンスの推進
東南アジアを内需と捉えたパートナー戦略での海外事業強化	●パートナー戦略体制の構築 ●Eurowindow社との協業体制によるローカル市場拡大	社会課題解決のための商品・サービスの拡充

お客様の満足を追求

「営業が商品を創る」プロジェクト

BXグループは、お客様に新しいライフスタイルを提供する高付加価値の創造をめざしています。お客様に感動を与える“ことづくり”を実現するためには、お客様に寄り添い、感性を持って「見る」ことで、お客様の潜在化のご要望を顕在化する総合提案力を身につける必要があります。営業担当者がお客様の声を具現化し、新事業、新商品の開発へとつなげる「営業が商品を創る」プロジェクトは、2011年の開始以降、お客様の情報を共有することで毎年テーマに沿った提案をし、豊かな発想による新たな提案には表彰制度を設けています。これまでに数々の提案が商品化され、販売を開始しています。



車載用自動開閉リモコン「セレクルーズ」

お客様相談室の取り組み

BXグループは、お客様の要求品質を満足させるために企画、開発、営業、設計、購買、製造、施工、メンテナンス、各部門の仕事の品質を向上させ、グループ全体としての品質保証体制を構築し、お客様より信頼される品質をめざしています。お客様相談室は、お客様から電話やメール等でいただいた要求品質を正しく掴み、適切、迅速そして誠実に対応することを心掛けています。

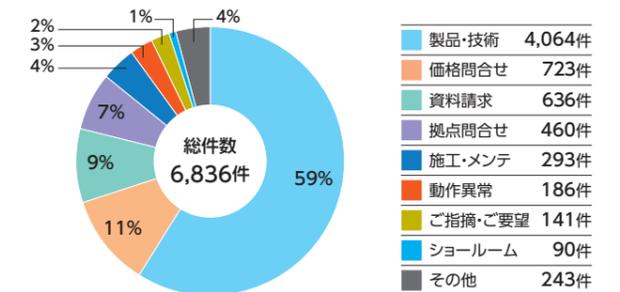
お客様からいただいた貴重な情報は、随時関連部門に発信し、新商品の開発や商品の改良・改善、ホームページやカタログのリニューアルに活かし、お客様満足の向上に努めています。

ています。また、社内のポータルサイト上に「お客様相談室情報館」を立ち上げ、全従業員がいつでもお客様の声を閲覧、検索することができます。

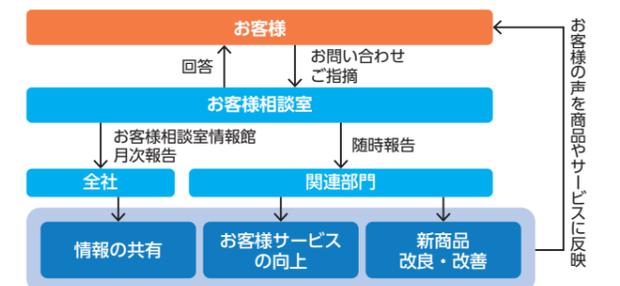
日々の活動として、電話受付終了後には夕礼を行い、一日の問い合わせ対応を報告し合っています。お互いが気づかなかったことを確認し、応対力の向上に努めています。

今後もお客様より信頼される品質を追求し、邁進していきます。

2016年度のお問い合わせ件数とその内訳



お客様対応の流れ



TOPICS 主な出展展示会

展示会	出展製品
防災防災総合展 in KANSAI 2016	BCP対策製品
危機管理産業展2016	防災関連製品
SAFETEC2016 第2回 西日本防災・防犯危機管理展	防災関連製品
VIETBUILD HCM 2016 (ベトナム) (Eurowindow社と共同出展)	住宅用ガレージ・窓シャッター
2016高雄国際建材大展 (台湾) (GLADOORと共同出展)	住宅用ガレージ
CAMBUILD 2016 (カンボジア) (三井物産メタルズと共同出展)	住宅用建材、防災関連製品
MYANBUILD 2016 (ミャンマー) (三井物産メタルズと共同出展)	住宅用建材、高速シートシャッター、重量シャッター
2016台北国際建材大展 (台湾) (GLADOORと共同出展)	住宅用ガレージ
VIETBUILD HANOI 2017 (ベトナム) (Eurowindow社と共同出展)	住宅用ガレージ、住宅用建材

危機管理産業展2016

文化シャッターでは、行政、企業に対し、防災・防犯対策等の必要性を提案することを目的に、危機管理に関わる全ての分野を網羅したビジネストレイドショー「危機管理産業展2016」に継続して出展しています。恒例となった止水製品の実演では、実際に製品を取り付けて水槽に水を張ることで、その簡易性や有効性を目で見て確認していただく貴重な機会となりました。見学者からはご質問やご要望が多数あがり、改めて止水製品への期待の高さを感じました。



VOICE

1日5回実施した止水製品の実演には毎回ブースから溢れるほどの見学者が訪れました。防災、とりわけ止水製品への関心の高さを感ずると同時に、来場者の職種も多様化しており、今後ますますお客様のさまざまなシチュエーションに応じた製品を総合的にご提案する必要があると感じました。このような展示会への出展は、直接お客様のお声を聞くことのできる最も貴重な機会です。



文化シャッター
営業推進部一部
井出 愛実



SAFETEC2016 第2回西日本防災・防犯危機管理展 「守りたい、みんなの安心・安全を」をテーマとした日刊工業新聞社主催の「SAFETEC2016 第2回西日本防災・防犯危機管理展」が北九州市西日本総合展示場で開催され、文化シャッターは昨年に続き「安心」「安全」に関連した防災ソリューションを展示しました。

VOICE

「平成28年熊本地震」による被災地に近いエリアでの開催とあって訪れる人の防災意識が非常に高く、特に止水製品の実演は大変好評でした。講演のために会場に訪れていた熊本県知事がブースに立ち寄り、当社が寄贈した「避難所用間仕切り」が実際に避難所でのように使用されたのかなど、発災当時の状況をお話しくださる場面もありました。



文化シャッター
九州支店 営業開発部
富原 千佳

グループの成長・発展

地域との共生～文京区長との対談～

BXグループでは「地域との共生が企業成長の原点である」という考えのもと、あらゆるステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、地域課題の解決に取り組んでいます。中でも今中期経営計画では防災事業を注力事業として挙げていることから、産官民による「顔の見える関係づくり」が、災害に強い社会の創成に欠かせないものと考え、2015年度には文京区防災課、文京区社会福祉協議会、民生委員代表の皆様とのダイアログを実施、続く2016年度は当社潮崎社長と文京区成澤区長との対談を実施しました。

当社は2014年に文京区が開催した「防災フェスタ」に、止水製品をはじめとした防災関連商品を展示したことをきっかけに、文京区と「災害時における相互協力に関する協定」



文京区防災フェスタ

を締結しており、発災時には社屋の一部を開放し、帰宅困難者の受け入れを行う等、地域防災・発災時対応等に貢献する一方、自治体や企業のBCPといった自助を支援する防災関連ソリューションの拡充を進めています。



文京区成澤区長と潮崎社長の対談の様子

グループの発展を担う事業を、注力事業として展開していきます。エコ・防災事業は継続して注力すべき事業と捉えています。さらに海外事業では、当社の生産拠点であるベトナムを中核に、ASEAN（東南アジア）を中心に販路を拡大し、事業の強化を図ります。

2016年度からスタートさせた中期経営計画においても、グループ一丸となって取り組み、「進化する快適環境ソリューショングループ」としてさらに成長し続けます。

設計・工務革新プロジェクト

「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現には、設計力、施工力の強化は必須です。次世代リーダーが中心となり、多様化する現場状況に柔軟に対応できるネットワークづくりや、お客様のご要望にお応えする設計・製造・工務に至る一気通貫の最適化をめざし、「設計・工務革新プロジェクト」を発足させました。1年間におよぶ研修プログラムでは、知識、技術の平準化に向けた研修や、各エリアでの現状について情報共有を行い、提起された課題ごとの具体的な施策を発表しました。



研修の様子



「2016年度グッドデザイン賞」授賞式にて

VOICE

設計と工務の問題点やあるべき姿について、意見交換しながら新しい構想を提案するという、貴重な経験となりました。テーマを生み出す大変さと、表現する難しさも同時に学ぶことができました。全国から集まったメンバーと同じ目的のもと、約一年間活動した経験は大きな財産であり、今後の業務に活かしていきたいと思っています。



文化シャッター
東日本施工統括部
設計一課
梅澤 拓也

つ製品とサービスを提供してきた総合建材メーカーとして、今後両社との協業によって事業領域を拡大するとともに、より幅広い総合提案を行うことでさらなるお客様の信頼を獲得し、グループの成長と発展をめざします。

パートナー戦略体制の構築

文化シャッターは、2015年にベトナムにおける樹脂サッシ、アルミサッシのトップメーカー Eurowindow Joint Stock Company（以下Eurowindow社）と資本提携しました。すでに協業関係にある不二サッシと3社の連携で、技術および商品開発をはじめ、ベトナムでの現地使用商品の拡充や、新規事業商品の共同開発を推進しています。また、Eurowindow社の保有する営業拠点と連携し、シャッター、サッシ、ガラス製品等による総合提案を展開しています。アジア市場への本格参入として、両社とのパートナー戦略体制の構築によるシナジー効果に期待しています。



Eurowindow社

BXカネシン・BX TOSHOをグループ会社化



BXカネシン外観

BXグループは、建築金物製造販売会社の株式会社カネシンと、木造構造計算の東昭エンジニアリング株式会社を保有する株式会社ワイエスホールディングスと株式譲渡契約を締結し、BXカネシン、BX TOSHOとして新たにグループ会社に迎え、

グループ全21社となりました。生活者視点で開発した製品と、お客様との持続的な信頼関係づくりには欠かせないアフターサービス体制により、お客様のさまざまな暮らしに役立つ

TOPICS 2016年度の主な受賞

第10回キッズデザイン賞

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会

電動窓シャッター用 「ワイヤレスタイマースイッチ」



電動窓シャッターの開閉をタイマーで制御し、日の出・日の入りに合わせることも可能です。人が本来持つ、自然の目覚めと休息や睡眠を促し、子どもたちの健やかな成長に役立つ製品となっています。

2016年度グッドデザイン賞

公益財団法人日本デザイン振興会

BX止水板「ラクセット」



第27回読者が選ぶネーミング大賞 「ブランドネーミング賞」

株式会社日刊工業新聞社

新型高速シートシャッター「大間迅」



誠実な企業経営

コンプライアンスの徹底

BXグループでは、全従業員を対象とした各種e-ラーニングの実施や、社内のポータルサイト上で短時間に学べる「こんぶらだより」の定期配信等を通じたコンプライアンス教育を実施しています。従業員には常時携帯できるコンパクトサイズの「CSR憲章」を配付し、一人ひとりに良き企業市民としての行動を徹底しているほか、各エリアにおけるコンプライアンス集合研修の実施や、定期的な勉強会を報告する制度を

設けるなど、さまざまな機会によりコンプライアンス意識の向上を図る取り組みを展開しています。また、2017年度からは、コンプライアンス監査制度の導入に向け、全社的な意識調査や各エリアの実態調査を開始し、さまざまな事例検討により、さらに実質的なコンプライアンスの徹底に取り組みます。



コンプライアンス研修の様子



新任所課長研修資料

社会と共に

BXグループでは、創業以来、事業活動を通じての社会との関わりを大切にしてきました。“私たちができる社会貢献”を念頭に、地域社会にとって最適な活動に取り組み、良き企業市民として積極的に関わっていきます。



富士山清掃活動での集合写真

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○ 目標達成 △ 要改善)	2017年度目標
被災地の子どもたちを笑顔にする支援活動の実施	●「第2回BXマルシェ東北うまいものフェア」を開催 ●「第6回Happy Disc Cup巨理町ドッチビー大会」に協賛 ○	2016年度と同様の目標を引き続き継続
当社グループ拠点所在地の自治体との協働を通じた災害発生時における周辺住民の安全体制構築への取り組み	●「平成28年熊本地震」被災地への支援活動 ○ ●小山市と災害協定を締結 ○ ●「文京区防災フェスタ」に出展 ○	●全体の活動…より積極的に全国展開する ●被災地での活動…より充実した活動を継続的に取り組む
職場体験、就労体験、職場見学等への自社施設等の開放ならびに、次世代育成への積極的な取り組み	●各エリアにおいて小・中学校、高校の職業体験を受け入れ ○ ●東洋大学生の「社会貢献フィールド活動」を受け入れ ○	

企業市民としての社会貢献

第2回BXマルシェ東北うまいものフェアを開催

東日本大震災発生から、6年が経過した今、変化する被災地のニーズに合った支援を目的に、東北物産展「第2回BXマルシェ東北うまいものフェア」を、BXホールにて開催しました。これにより被災地の産業復興につながるほか、地域の皆様を含む多くの方が、現地に赴くことなく支援活動に参加でき、現在もなお、復興に向けて奮闘する被災者の想いを「知る」機会としても意義のある活動です。当日は東洋大学のゼミ生も「社会貢献フィールド活動」として参加



会場の様子

し、マルシェの盛り上がりに一役買ってくれました。第1回に引き続き、従業員をはじめ、多くの地域住民や近隣にお勤めの皆様にご来場になり、出店した被災地の方々にもご好評をいただきました。

from STAKEHOLDER

大学の講義では決して学ぶことのできない、CSRの現場を肌で感じることができました。「人とのつながり」を大切にする企業姿勢に感銘を受け、この経験が、「地域に密着した社会貢献活動に携わりたい」と将来の職業選択を見据えるきっかけとなりました。このような社会体験は、私たち学生にとって、企業と社会の関わりを目の当たりにできる非常に貴重なものです。今後もぜひ、私たちの後輩が継続して参加させていただけたらと思います。



「社会貢献フィールド活動」で参加した東洋大学生



東洋大学
社会学部
社会福祉学科 3年生
田中 恵嘉 様

第4回BXグループ富士山清掃活動

BXグループでは、アルピニストの野口健氏の活動に賛同し、協賛しています。第4回となる富士山清掃活動では、野口健氏、NPO法人「富士山クラブ」の協力のもと、BXグループ従業員とその家族、総勢203名が参加しました。トラック2台分の廃棄物を回収した後、野口健氏による環境教室が開かれ、参加者には環境問題について改めて考える機会となりました。今後も、このような環境保全活動を通じ、従業員の意識と一体感を高め、社会の課題に取り組む活動を推進していきます。



活動の様子

野口健氏を囲んで

VOICE

今回で2回目の参加となります。私の仕事はリフォーム工事なので、家屋解体やリフォームの廃材が不法投棄されているのを初めて見た時には衝撃を受けました。参加のきっかけは野口健さんにお会いすることでしたが、あまりの廃棄物の多さに気づけば必死にゴミを集めていました。富士山麓の清掃活動を20年近くも続けている富士山クラブには敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。富士山に限らず日本には守るべき自然が多く、美しい日本を後世に伝える活動に、参加できたことを嬉しく思っています。



BXゆとりフォーム
武蔵野店
越 忍

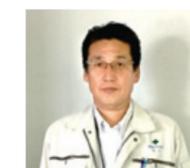
人道的社会貢献

「平成28年熊本地震」被災地への支援活動

2016年4月に発生した熊本地震において、文化シャッターでは義援金と共に避難所でのプライバシーを確保するための間仕切400名分を寄贈しました。また当社福岡工場を拠点とした飲料水や簡易トイレ等の物資による支援のほか、破損や開閉困難となったシャッター等への取り扱い注意喚起など迅速な応急体制で対応しました。BXグループでは「エコと防災」をテーマに事業活動を行っていますが、同時に発災時についても全国拠点にある資源を活かし、迅速な対応で支援活動を実施します。

VOICE

「平成28年熊本地震」から、1年が過ぎました。多くの方からの温かいお言葉、そして早急な支援物資の手配に心から感謝しています。震災直後のあらゆる道路・ライフライン等が寸断された混乱の中、地域に何かできることはないかと思っていたところに、営業所近くの避難所となっていた小学校で、支援物資が届かず困っているという話を聞きました。微力ではありますが、少しでもお役に立てればとの思いで、できる限りの物資を届けさせていただきました。発災時には情報が分断される傾向にあります。普段から地域の皆様と顔の見える関係を築き、いざという時には迅速に連携できることの大切さを知りました。



文化シャッター
九州支店 熊本営業所
坂口 浩司



震災直後の事務所の様子

避難所用間仕切

文化活動の支援

文化活動を通じた地域社会への貢献

BXグループでは、音楽や伝統芸能などさまざまな文化活動を支援しており、また本社に併設されたBXホールを開放し、文化活動を通じた地域社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。中でも定期的に開催している障がいのある方を招待してのチャリティコンサートでは、パイオニア株式会社様の「体感音響システム」を使用し、耳の不自由な方にも一緒に音楽を楽しんでいただいております。今後も他企業、他団体様との協働や当社の保有する資源を最大限に活かした活動を通じて、地域の皆様の文化活動の促進に貢献していきます。

WEB [パイオニア株式会社 身体で聴こう音楽会](http://pioneer.jp/corp/society/contribution/music/karadadekikou/about/)
<http://pioneer.jp/corp/society/contribution/music/karadadekikou/about/>



目録の贈呈

アコーディオンとバイオリンのデュオ「TENGO」

from STAKEHOLDER

約5年前からBXホールでのチャリティコンサートにご招待いただいております。今では恒例の行事となっており、毎回多くの会員がコンサートを楽しみにしています。特にアコーディオンとヴァイオリンのデュオ「TENGO」のお二人にはファンが多く、元氣と勇気をもらっています。コンサート後には会員からの直筆のメッセージを送り、また返信をいただくなどの交流も生まれています。



文京区心身障害
福祉団体連合会
会長
住友 孝子 様

BXグループのエリア活動

●文化シャッターサービス 障がい者施設の合同体育祭を支援

文化シャッターサービスでは、障がい者支援活動をCSR推進テーマに定め、昨年に引き続き千葉県内の障がい者施設による合同体育祭「ウルトラ大運動会」に、千葉サービス支店のメンバーがボランティアスタッフとして参加しました。前日の会場設営をはじめ、会費の集計、運営補助やキャラクターの着ぐるみで会場を盛り上げるなど、300名以上が参加するこの大会には、ボランティアスタッフの協力が不可欠となっています。また、全国各地の社会福祉法人よりノベルティを購入し、お客様にお渡しする活動も行って、最近では「ぜひ当社でも取り組みたい」と活動に賛同する他企業も増えてきていると聞いています。

今後もこのような活動を全従業員が一体となって継続することで、障がい者が活躍する社会の形成に貢献したいと考えています。



第24回ウルトラ大運動会



ボランティアスタッフの活躍

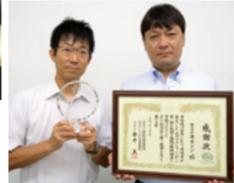
●BXカネシン 「エコアクション21」10年継続により表彰

BXカネシンでは、環境保全への取り組みを効果的・効率的に行うことができる環境マネジメントシステムの構築、運用をはじめ、製品開発における省資源型製品の創出および販売拡大、CO₂、廃棄物排出量の削減などの活動を継続して実施しています。この度エコアクション21認証登録業者として、10年間継続の功績を認められ、事務局から表彰を受けました。また、当社が実施している顧客満足度調査においては、多くのお客様から当社のこのような取り組み姿勢を評価する声をいただいています。

今後もこの活動を継続し、環境保全への貢献という視点を忘れずに従業員一丸となって取り組んでいきます。



授賞式の様子



●BX文化工芸 地域の小学生がものづくりを体験

BX文化工芸では、当社前の通学路を利用する児童からの提案で、埼玉県川口市立芝中央小学校に通う3年生を職業体験として受け入れ、ものづくりを体験してもらいました。テーマは「発見・体験・まちの名人」。完成した時の感動やものづくりの素晴らしさを感じてもらおうと、安全面には十分に配慮しながら工程ごとの作業に取り組んでもらいました。児童たちは各担当者からの説明を熱心に聞き、時には積極的に質問をするなど、熱心に取り組んでくれました。自分たちが製作に携わった「オープン棚」を持ち帰る時の笑顔は忘れられません。子どもたちがものづくりに興味を持ち、未来を担うことを願って、今後も継続して職業体験の受け入れを実施していきたいと思ひます。



熱心に聞き入る児童

BXグループでは、全国にある各事業所が主体となってCSR活動を推進しています。災害被災地での復興支援活動や、地元中学生・高校生を対象とした就業体験の受け入れ、チャリティーイベントへの協力など、従業員一人ひとりが、「地域のために」の思いを持って、各地域に根差した活動に自主的に取り組んでいます。



とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業 「梅のへた取り」参加者集合写真



はっさくの収穫



そばの収穫

●BX朝日建材

とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業

BX朝日建材では、徳島県が主催する「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」に協働パートナーとして参加しています。地域創成に意欲的な団体「ふるさと団体」と、地域に貢献したい企業等の「協働パートナー」が、はっさくやそばの収穫作業等の農作業支援を通じて、共に地域の活性化を図ります。参加当初は少数だった参加者も年々増加の傾向にあり「年代の違う方々と一緒に活動する事でコミュニケーション力に自信がついた」など、自身の行動変容にもつながっているようです。県の担当者からは、当社の熱心な取り組み姿勢に感謝の言葉をいただいております。企業市民として地域に貢献できると同時に、個人の成長も感じられる活動となっています。

●文化シャッター 小山工場 小山市と災害協定を締結

小山工場では、2015年に発生した「関東・東北豪雨」に代表される大規模災害に備え、栃木県小山市と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結しました。この協定は、発災時において、人員を含めた工場の所有する資源を提供し、駐車場等の敷地を避難所として活用するなどの支援内容が含まれます。この締結をきっかけに、さらに地域防災への意識向上を図り、行政や市内他企業との連携を深め、地域に貢献していきます。



小山市大久保市長との調印式

●文化シャッター 姫路工場・御着工場

障がい者支援団体のパンを工場販売

姫路工場および御着工場では、姫路市内の「NPO法人みんなのいえ」の活動を支援し、施設に併設するパン工場のパンを月に一度工場内で販売しています。障がいを抱える方が焼いたパンを工場内で購入することで、従業員が気軽に貢献活動に参画でき、「みんなのいえ」からも「パンを販売した売上金によって、福祉サービス事業をさらに成長させていくことができる」といった喜びの声が届いています。今後もこのように積極的に参画できる貢献活動を継続していきます。



御着工場でのパン販売

●BXホール 「平成28年熊本地震」支援活動「うつくしいひと」上映会

文化シャッター本社ビルのBXホールでは、2016年6月に「平成28年熊本地震」の被災地復興を願い、行定勲監督による熊本復興支援映画「うつくしいひと」上映会を開催しました。上映後には行定監督と出演者によるトークショーが行われ、震災前の熊本の風景を記録した映像の解説や、復興支援のあり方について、熊本県出身のお二人の思いが交わされました。BXホールは「文化の発信基地」として、会議や講演会をはじめ、展示会や音楽プログラムにも対応した設備を兼ね備えており、地域の文化活動のほか、多岐にわたりご利用いただいております。また災害時には帰宅困難者を受け入れる協定を締結するなど、地域防災にも貢献しています。今後も所有する資源を活かした貢献活動を継続して実施します。



行定勲監督と出演者によるトークショー
右) 義援金の贈呈

地球と共に

BXグループでは地球規模で深刻化する環境問題に対し、CSR憲章「地球と共に」に基づき、事業活動とお客様に提供する商品やサービスを通じた環境保全に取り組んでいます。2016年度は、「エネルギーの見える化」により事業活動における省エネ活動を推進するとともに、サプライヤーの皆様と連携し環境保全の取り組みを進めました。



100%リサイクル素材 木材・プラスチック再生複合材エクステリア「テクモク」

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○ 目標達成 △ 要改善)	2017年度目標
電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減(2015年度比1%削減)	●工場における「消費エネルギーの見える化計画」を開始 ○	電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減(2016年度比1%削減)
ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開	●文化シャッターの7工場、グループ会社の3工場でゼロエミッションを達成維持 ○	ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開
サプライチェーン全体での環境負荷低減の推進	●調達ガイドラインの見直し △	サプライチェーン全体での環境負荷低減の促進
「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発	●「HEMS」対応製品の拡充 ○	「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発
自主的な環境保全活動の推進と支援	●「こどもエコクラブ全国フェスティバル2017」への参画 ○	自主的な環境保全活動の推進と支援

環境負荷を軽減した企業経営

グループ全体で環境負荷低減活動を推進

BXグループでは、エコアクション21を基盤とした環境経営システム(EMS)を構築すると共に、環境法の遵守を徹底し、グループ全体で環境負荷の低減に取り組んでいます。文化シャッター小山工場、BX新生精機、BXテンパル埼玉工場では、環境マネジメントの国際規格ISO14001認証を取得しています。

省エネルギー対策では、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサー等の省エネ機器導入、ガスヒートポンプエアコンへの切り替え、電力デマンドの管理による適正なエネルギー使用の平準化、太陽光発電システムの導入、およびエコドライブの推進等に取り組んでいます。2016年度は電気使用原単位を0.1%の削減となりましたが、ガソリン使用原単位は4.4%(2015年度比)の増加となり一層の努力が必

要となりました。

廃棄物については、グループ全体での分別、リサイクルを推進し、総排出量を48.2%(2015年度比)削減しました。また、生産活動で使用する化学物質も適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。

工場における「消費エネルギーの見える化計画」を開始

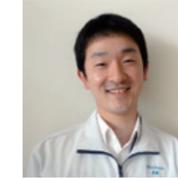
文化シャッターでは、省エネルギー法で定める「特定事業者」に指定されており、エネルギー使用の合理化および電気の需要の平準化を推進しています。各工場では、省エネ効果の高い生産設備や照明設備の導入等によるエネルギー原単位の削減に取り組んでいます。

この度、秋田工場をモデル工場として、エネルギーロスの要因を自ら見つけ改善できる仕組みを構築し、中長期的な

省エネ設備を体系的に導入する「消費エネルギーの見える化計画」を開始しました。この取り組みで蓄積したノウハウを他工場に展開し、全工場におけるエネルギーロスを最小限に抑えるシステムを構築することで、地球環境保全における企業の責任を果たしていきます。

VOICE

「消費エネルギーの見える化計画」のシステムを導入したことで、工場建屋や設備ごとの消費エネルギーが把握できるようになりました。これにより、対策を講じた際の成果がデータによって確認できるようになり、より一層の省エネ意識向上につながります。今後エネルギーロス要因を自ら見つけ、計画的かつ継続的に改善できる仕組みを工場と本社部門が一体となって構築し、文化シャッター各工場およびグループ各社への展開も視野に入れた消費エネルギーの削減に努めていきます。



文化シャッター製造企画部
栗瀬 佑輔

BXグループにおけるゼロエミッションへの取り組み

BXグループでは、文化シャッター7工場(千歳、秋田、小山、掛川、姫路、御着、福岡)全てにおいてゼロエミッションを達成し、継続しています。またグループ会社においても、BXティアール埼玉工場、BX新生精機、およびBX鐵矢の工場においてゼロエミッションを達成しています。今後も引き続きグループ全体に活動を展開し、ゼロエミッションの継続と達成にむけた取り組みを推進していきます。

VOICE

BX文化パネル播磨工場ではゼロエミッション達成に向けての挑戦がスタートしました。準備期間を設け、文化シャッターの製造企画部、御着工場、さらにグループ会社においてすでにゼロエミッションを達成しているBX新生精機の各担当者からアドバイスをもらいながら環境を整えましたが、いざスタートしてみると分類目の理解が統一されておらず、ゴミの混が見られるなど、一人でも意識が欠落すると絶対に達成できない取り組みだと実感させられました。ゼロエミッション達成への強い意志を持ち、従業員全員が正しく分類できるよう理解を共有することで達成目標に近づいています。ゼロエミッション達成後も継続し取り組んでいきます。



BX文化パネル播磨工場



BX文化パネル播磨工場 工場長
寺坂 彰能

環境配慮技術・商品開発

HEMS対応商品の拡充

文化シャッターでは、電気やガスの使用状況をモニター画面などで「見える化」したり、家電機器を自動制御することで、家庭で使用するエネルギーを省力化する管理システム「HEMS」と連携した窓シャッターを2015年に発売しました。「HEMS」の標準通信規格であるECHONET Lite[®]に準拠した窓シャッターは当時としては業界初であり、さらにスマートフォンとの連動で外出先からも開閉操作が可能のため、急な天候の変化に対応できると同時に、防犯面もサポートします。2016年度より外付ブラインドとの連携も開始され、室内に入り込む日射しをコントロールでき、また室内の冷暖房効率の向上にも効果があります。現在4社の「HEMS」との連携が可能、今後もますます拡充させていく予定です。

このように文化シャッターでは、お客様が快適に安心して暮らせる環境づくりに、「便利」と「省エネ」という新たな価値を提案する商品の拡充を進めています。今後も快適さや利便性を追求しながら、環境に配慮した製品の開発を通じて、地球環境の保全に貢献していきます。

※ ECHONET Lite : 家電機器、スマートメーター、太陽光発電システムなどを含む約80種類以上の機器と通信できるHEMS構築のための通信規格。ISO規格、IEC規格として国際標準化されています。





「こどもエコクラブ全国フェスティバル」集合写真

自主的な環境保全活動

こどもエコクラブ全国フェスティバル2017への参画

文化シャッターは公益財団法人日本環境協会が主催する「こどもエコクラブ」に賛同し、パートナー企業として活動を支援しています。全国の子どもたちが自主的に環境問題に取り組み、一年間の成果を発表する「こどもエコクラブ全国フェスティバル」には継続して参加しており、文化シャッターが推進する環境負荷低減活動を、実際に目で見て、手で触り、体感できるブースを出展しています。2016年度のテーマは「輝け☆全国のアースレンジャー」。当日は最多の619名もの子どもたちが全国から参加しました。それぞれの活動を壁新聞で発表し、子どもたちの取材によって選出されたチームを称える表彰式が行われました。当社のブースにも多くの子どもたちが集まり、積極的に質問をするなど地球環境保全に取り組む企業の動きについて、知っていただく良い機会となりました。未来を担う子どもたちが、環境問題を身近に感じ、自主的に取り組むことのできる「こどもエコクラブ」の活動を今後も支援していきます。



VOICE

「こどもエコクラブ全国フェスティバル」のブース出展を通じて、子どもたちと触れ合うことが毎回の楽しみとなっています。環境問題に関心のある子どもたちからの質問には、時々うなってしまうような鋭い難問もあり、勉強させられると同時に、喫緊の問題である地球環境保全をこんなにも真剣に考えている子どもたちの存在を頼もしく感じています。



「こどもエコクラブ」のイメージキャラクター「エコまる」



文化シャッター
ドア・パーティション
事業本部
福祉住環境部 係長
松田 充司

化学物質の適正な管理

生産活動で使用する化学物質についても適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。

化学物質 大気への放出量・移動量 (t)

	大気への放出量	前年比	移動量	前年比
エチルベンゼン	28.4	↓	2.6	→
キシレン	61.2	↓	6.3	↓
トリメチルベンゼン	0.0	→	0.0	→
トルエン	31.0	↓	9.9	↓
鉛その他化合物	3.5	↑	6.2	↓
その他	0.8	↓	0.0	↓
合計	124.9	↓	25.0	↓

BXグループ環境負荷の全体像

BXグループ・環境方針

環境理念 人・社会・環境にやさしい商品づくりに積極的に取り組み、「快適環境のソリューショングループ」として健全で豊かな社会の実現に貢献します。

- 行動指針**
- 省エネやリサイクル活動を積極的に推進します。
 - 環境関連法規制及びその他関連事項を遵守し、環境汚染の予防と継続的な改善に努めます。
 - 環境保護・改善に寄与する製商品の開発・設計、及び資材の購入に努めます。
 - 製造～販売～物流～施工及びアフターサービスの各段階でもたらされる環境負荷の低減に努めます。
 - 社員一人ひとりが環境への意識向上を図るとともに、企業市民として環境保護活動を推進します。

2016年度の事業活動による環境負荷の全体像

2015年度比 ↑ 増加 → 同等 ↓ 削減

INPUT

開発	環境配慮設計指針/ LCA設計
エネルギー	電力 6,357.0kWh ↑ 灯油 45.8kL ↓ 都市ガス 110,949.0m³ ↑ LNG 0.0t ↓ LPG 7.0t ↓ ガソリン 4,116.5kL ↑ 軽油 621.7kL ↑
水資源	上水 54,690.4m³ ↑ 地下水 5,534m³ ↑

製造	製造活動における エネルギー・資源の使用
エネルギー	電力 13,624.0kWh ↑ 灯油 61.0kL ↓ 都市ガス 225,683.3m³ ↑ LPG 410.5t ↑ ガソリン 142.7t ↑ 軽油 62.7kL ↓
水資源	上水 28,971m³ ↑ 地下水 56,731m³ →

開発
環境配慮設計指針/
LCA設計

資材調達
グリーン購入

販売・サービス
販売・サービス活動における
エネルギー・資源の使用

製造
製造活動における
エネルギー・資源の使用

物流
物流における
エネルギーの使用

施工
施工における
エネルギーの使用

使用
商品使用段階における
環境負荷の低減

廃棄
廃棄段階における
環境負荷の低減

OUTPUT

大気への放出	CO ₂ 排出量	14,561t-CO ₂	↑
水域への放出	水	52,316m³	↑



大気への放出	CO ₂ 排出量	9,743t-CO ₂	↓
	PRTR対象物質	149.9t	↑
水域への放出	水	56,731m³	↓



廃棄物	埋立・焼却量	107t	↓
	リサイクル量	7,904t	↓



廃棄物	埋立・焼却量	3,132t	↑
	リサイクル量	1,840t	↓



働く仲間と共に

「自ら手を挙げチャレンジする」という組織風土を醸成させるためのさまざまな取り組みを実施しています。中でも「新しい働き方実現プロジェクト」では、従業員自らが職場環境や働き方について協議を積み重ね、サテライトオフィスの設置や会議の効率化等の取り組みが始まり、全社に展開していく予定です。2017年度はBXグループ全社で「働き方の改革」を推進し、多様な人材がさらに活躍できる職場づくりを進めていきます。



「チーム・イノベーション・キャンプ」研修

活動ハイライト		
2016年度目標	実績 (○ 目標達成 △ 要改善)	2017年度目標
生産性を向上させる取り組みで、ワークライフバランスの実現を図る	●従業員自らが考える「新しい働き方実現プロジェクト」 ●多様な働き方を支援 ○	「働き方の革新」の推進
従業員の健康を保つために、メンタルヘルスケアに取り組む	●ストレスチェック制度の導入 ○	メンタルヘルスケアの推進
従業員同士が活発なコミュニケーションを図ることができ環境や制度を整備する	●全ての人が活躍できる職場づくりを推進 ○	多様な人材が活躍できる職場環境の整備
自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透を図る	●豊かな発想を育成するためのさまざまな人事制度の拡充 ●「チーム・イノベーション・キャンプ」を全国5ヶ所で開催 ○	自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透

TOPICS 人事関連データ (集計範囲:文化シャッター)

※文化シャッター「単体」で算出

項目	2014年度	2015年度	2016年度	
新卒新入社員人数(名)	42	47	42	
新卒新入社員3年間の定着率(%)	94.25	92.37	92.36	
離職率(%)	1.38	1.35	1.98	
平均年齢(歳)	男性	43.2	42.8	43.7
	女性	40.0	39.6	40.9
	全体	42.9	42.5	43.4
平均勤続年数(年)	男性	17.6	16.8	17.3
	女性	16.3	15.3	16.6
	全体	17.5	16.7	17.3
女性管理職(名)	0	0	0	
育児休業取得者(名)	12	18	17	
短時間勤務利用者(名)	5	10	14	
介護休暇取得者(名)	0	0	0	
障がい者雇用率(%)	2.14	2.00	2.03	
定年後再雇用実績(名)	28	34	32	

人権の尊重

従業員自らが考える「新しい働き方実現プロジェクト」



会議の様子

文化シャッターでは、従業員一人ひとりが自らの業務を見直し、改善・改革に積極的に取り組むことで生産性や効率性を向上させ、労働時間の短縮によるワークライフバランスの実現をめざして「働き方の改革」を推進しています。また、従業員の効率性や快適性を追求した職場環境づくりの観点から「新しい働き方実現プロジェクト」を発足させ、ワークスタイルを多様化させるための提案や検討を重ね、サテライトオフィスの設置など「BXワークスタイル」として、グループ各事業所への水平展開を念頭に置いた具体的な取り組みを開始しました。

多様な働き方を支援

文化シャッターでは、育児や介護をしながら仕事と家庭を両立が図れるよう、多様な働き方への支援に取り組んで

文化シャッターでは、従業員一人ひとりが自らの業務を見直し、改善・改革に積極的に取り組むことで生産性や効率性を向上させ、労働時間の短縮によるワークライフ

います。育児休業制度では、短時間勤務の対象を小学3年生に達するまでに拡大するなど制度の充実を図っています。

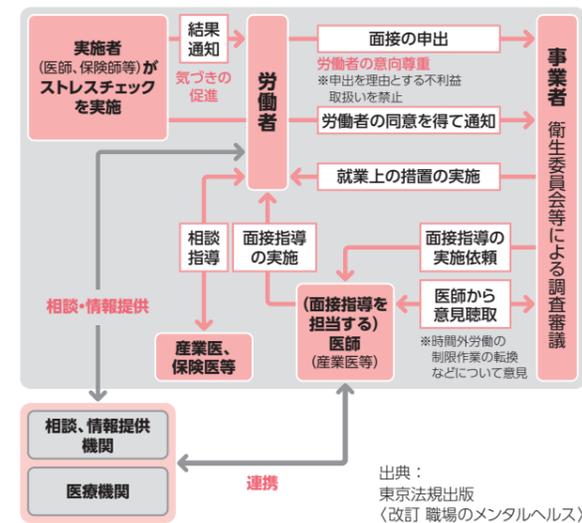
また家族の介護や特定疾患に罹病した場合には、積み立てた休暇の中から、有給休暇として取得することができる休暇積立制度のほか、法令に則り要介護状態にある家族を看護する従業員については所定時間外の労働を免除するなど、支援制度の整備を進めています。

ストレスチェック制度の導入

文化シャッターでは、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止するために、ストレスチェック制度を導入しました。11月に実施したストレスチェックでは、正社員、嘱託、契約社員、パートタイマーを含む1,982名(77.9%)の従業員が受講、産業医による結果に応じた面接の実施や、助言に基づいた環境改善に取り組んでいます。

また、健康相談日の設置や、衛生委員会の定期開催など、従業員がさまざまな不安を解消し、心身共に健康に働くことのできる環境を整えています。

ストレスチェック制度の仕組み



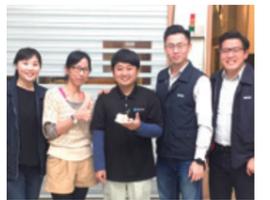
満足度の向上

豊かな発想を育成するためのさまざまな人事制度の拡充

文化シャッターでは、従業員のモチベーション向上と豊かな発想を育成するために、さまざまな人事制度・教育研修の拡充に取り組んでいます。海外派遣制度、グループ内インターンシップ制度、ジョブ公募制度などさまざまな職場経験の機会を創出することにより、従業員が新しいことに挑戦し、目標に向かう意欲を維持することで、BXグループ全体の成長をめざしています。制度の多くは従業員の提案がもとになっており、今後も制度を充実させ活用することで、自ら考え、自ら行動できる人材を育成してまいります。

VOICE

初の海外が長期生活になるという
ことで、当初は不安でいっぱい
でしたが、この貴重な機会を無駄に
すまいと、積極的にコミュニケーション
を図ろうと努力を続けたこと
で、台湾人スタッフと共に毎日、
有意義な研修を送ることができ
ました。長期間にわたり異文化に
触れ続けた経験を、これからの日本
での社会人生活の向上につなげ
ていきたいと思えます。



BX BUNKA TAIWAN
輸出貿易班のメンバーと

文化シャッター 中四国支店
施工管理センター岡山
清水 翔平 (写真中央)

「チーム・イノベーション・キャンプ」を全国5ヶ所で開催

BXグループでは、お客様に感動を与えるソリューションを提供することをめざし、組織の総合力を最大限に機能させることを目的とした「チーム・イノベーション・キャンプ」を全国5ヶ所で開催しました。

各リーダーが自己の行動特性を把握した上で自部門における使命・価値観を追求し、組織におけるイノベーション・プラン策定、実践に活かすことが目的の研修です。



チーム・イノベーション・キャンプ

その他多様なテーマの研修を通じて、従業員が自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透を図るとともに、BXグループ全体のシナジーをより一層発揮できる組織への改革を進めています。

VOICE

チームに「革新」を起こし、メンバーの力を最大限に発揮できる組織には何が
必要か、チームのあり方について身
をもって体験することができ
ました。従来の研修とは趣
の違った、ストーリー性のある
プログラムの体験型研修で、
今後のマネジメントに大いに
活かせる貴重な経験となり
ました。この経験をもとに、
自らの役割を十分に理解
した個人同士が、率直な意見
を交わすことのできる組織
づくりに励んでいます。



文化シャッターサービス
北海道サービス支店
札幌サービス課 課長
星 浩二

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

BXグループでは、株主や投資家の皆様をはじめとして、お客様、お取引先様、地域社会の皆様などのステークホルダーのご期待にお応えする事業活動を実現するため、継続的な経営の透明性向上の観点から、経営のチェック機能を充実させ、かつ公平性の維持を図るためのコーポレート・ガバナンス体制の整備、強化を推進しています。改正会社法やコーポレートガバナンス・コードによるグループガバナンス体制の強化が求められる中、当社グループは同コードに盛り込まれた原則を適切に実践することで、持続的な成長による企業価値のさらなる向上を図ってまいります。また、取締役会は会社法等の関係法令に基づき、内部統制システム構築の基本方針を制定し、継続的に内部統制体制の整備、強化を図っています。

監査等委員会による監査・内部監査の実施

文化シャッターでは、持続的な企業価値の向上を実現するため、従来からコーポレート・ガバナンスの強化に継続的に取り組んでいます。この度、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つこと等により、取締役会の監査・監督機能を一層強化し、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化と持続的な成長による企業価値の向上を目的に、従来の監査役会設置会社から、監査等委員会設置会社に移行しました。当社の監査等委員会は、社外取締役4名を含む5名の監査等委員で構成されており、経営の透明性確保を目的として、

適法性、妥当性の面から取締役の職務執行状況の監査を行っています。監査等委員会による監査では、取締役会のほかに、社内の重要会議への出席や重要書類の閲覧、各部門およびグループ会社への往査などを行い、職務執行の全般を業務監査しています。内部監査としては、CSR統括部監査室や各事業本部に設置している業務担当が、事業本部、支店、工場、営業所などを対象に計画的な内部監査を実施しています。また、監査等委員会は代表取締役および業務執行取締役等と適宜、意見や情報の交換を行っています。内部監査部門および会計監査人と随時情報や意見を交換し合う三様監査により、監査が実効的に実施される体制を確保しています。

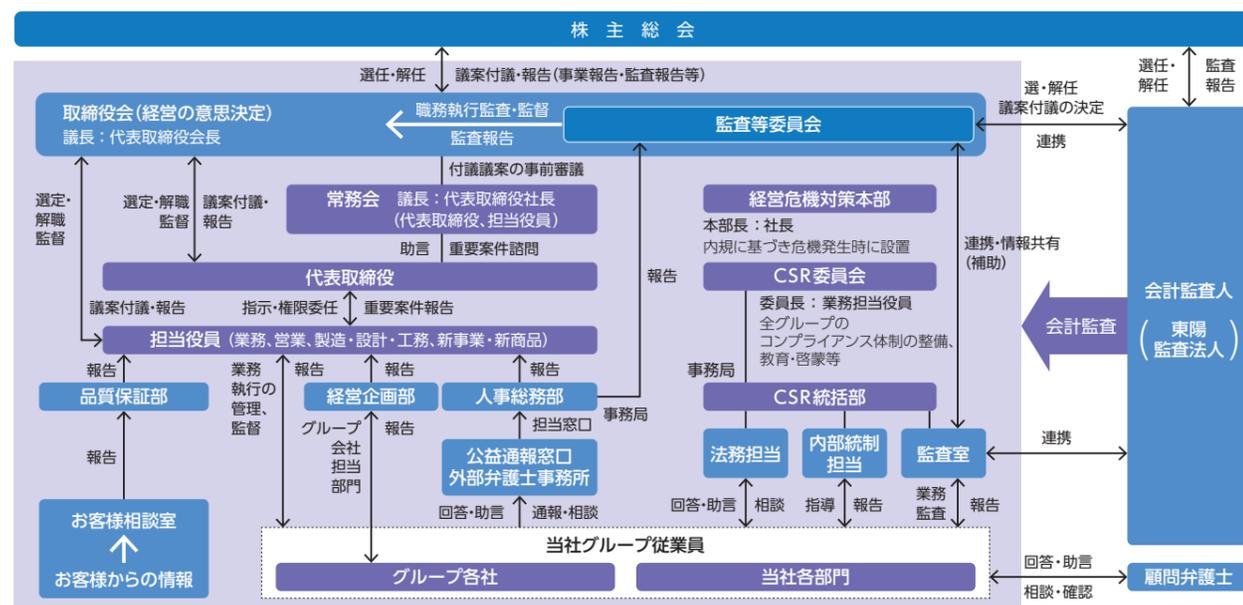
コンプライアンス

CSRガイドライン(CSR憲章)

BXグループでは、法令の遵守はもとより、社会規範や倫理に基づいた行動を一人ひとりが実践できるよう、遵守すべきルールを定めたCSRガイドラインを策定しており、e-ラーニング等を通じて周知徹底を図っています。またコンプライアンスに関する相談・連絡窓口として、「公益通報者保護規定」に基づき、社外に窓口を設置し、相談者が安心して利用できるよう、プライバシーを保護し、相談者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。

	2014年度	2015年度	2016年度
重大製品事故発生件数(件)	1	0	0
公益通報件数(件)	0	0	0

コーポレート・ガバナンス体制図(監査等委員会設置会社移行後)



リスクマネジメント

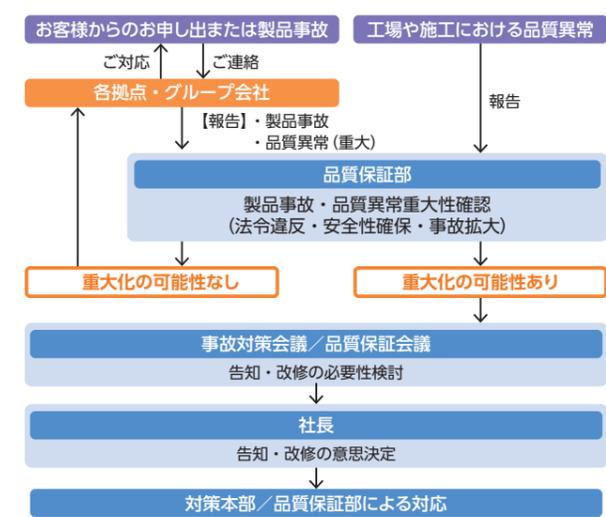
製品事故・品質異常の対応

BXグループでは、製品事故・品質異常に迅速かつ適切に対応するため、危機管理体制を構築しています。製品事故や重大な品質異常の情報は各拠点を通じて品質保証部に報告され、法令、安全性、事故拡大などの観点から重大化する可能性があるかと判断された場合には、各会議において審議を行います。会議では、法令遵守やお客様に「安心」「安全」にご使用いただけるかに主眼をおき、告知や改修の必要性を含め対応を検討し、社長との協議を経て告知や改修の最終決定を行います。製品事故、品質異常の情報から、迅速に原因究明を実施し、対策を講じることで再発防止を行います。また、水平展開を行うことで改良・改善に努めています。

WEB お客様サポート▶
シャッターをより安全にお使いいただくために
<http://www.bunka-s.co.jp/support/safety/>

	2014年度	2015年度	2016年度
重大製品事故発生件数(件)	1	0	0

危機管理体制(製品事故・品質異常対応)



CSR調達についてのガイドライン

BXグループでは、サプライチェーンマネジメントにおいて、「グローバル」「公正・公平」「地球環境保全」の観点より、CSRへの取り組みに積極的なお取引先様から優先して調達するCSR調達を推進しています。

- 1. 社会規範の遵守**
サプライヤーの皆様に対して、各社のCSRへの考え方、取り組み方に対して共通の認識を持てるよう文栄会(文化シャッター協力会の皆様)などの場で定期的な情報発信・指導を実施し、CSRに対する考え方・取り組み方が浸透するようにしています。
- 2. 購入品に関する品質の確保**
サプライヤーの品質管理状況を把握するために、定期的に監

査を実施することで調達する原材料や部品・製品の品質の向上と安定を図ります。今後も品質監査を実施・強化することで、さらなる品質の向上と安定を図ります。

3. 地球環境保全

サプライヤーに対して、ISO14000の取得状況やグリーン購入に関する実態調査を実施しています。今後もさらなる浸透を目指して現在の活動を維持・強化していきます。

製品の安定供給

BXグループでは、大規模災害が発生した場合を想定し、安定した製品供給を行うため、事業継続計画(BCP/BCM)の策定とマネジメントに取り組むことで、お客様への製品の供給責任を果たしています。

〈通信の確保〉

- 被災状況を迅速かつ詳細に把握するため、各工場に衛生通信機器を設置し、本社を含めた拠点間の連絡体制を構築しています。

〈調達BCP〉

- サプライチェーンの二重化
原材料については、複数の供給拠点から速やかに代替品が調達できるネットワークを構築しています。
- 自社での最低在庫の確保
主要部品や部材については、東西デポを利用した在庫のバッファ機能により、安定的な供給体制を構築しています。
- 調達に関するガイドラインの整備
各サプライヤーに対し、CSR調達に関するガイドラインを浸透させ、さらなる安定供給の徹底を図ります。

〈製品の供給〉

- 製造システムの対応
工場が被災した場合は、他工場への生産情報転送により製品の代替生産を可能とするバックアップ体制を構築しています。
- 物流体制の構築
製品のデリバリーは、お取引先様や交通インフラの被災状況を迅速に把握し、最適なルートを検索や車輻等を確保する体制を構築しています。

情報セキュリティ

BXグループでは、情報資産のセキュリティを確保するため、「電子情報管理規定」「ハードウェア及びソフトウェア管理規定」を制定し、これに基づく管理体制のもと、積極的にセキュリティ保持活動に取り組んでいます。

2005年より全社PC端末に対する管理機能強化、PC本体およびUSBメモリ等外部媒体の暗号化による情報漏洩対策を行っており、さらにiPad等のモバイル機器についても、遠隔情報消去やパスワードの強化等の対策を行っています。また災害を想定した取り組みとして、全サーバーをデータセンターに集約し、バックアップを含め安全な環境を構築しています。なお、2016年度は情報セキュリティに関する重大な事故等の発生はありませんでした。

第三者意見



駿河台大学経済経営学部教授・博士(経営学)
水尾 順一様

(株)資生堂を経て1999年駿河台大学助教授、2000年教授、現在に至る。日本経営倫理学会副会長、(株)アデランス社外取締役、(株)西武ホールディングス企業倫理委員会社外委員、経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書「サステナブル・カンパニー：「ずっと」栄える会社の事業構想」(株)宣伝会議など多数

企業でCSRの実務を推進し、大学でその理論構築をして「CSRの理論と実践の融合」を社会に促進してきた立場から、BXグループの「CSR報告書2017」について以下に第三者意見を申し述べます。

●高く評価できる点

BXグループのCSR経営について、「伝統と革新」の視点からわかりやすく開示されています。

企業経営は、創業の精神を守りつつ新たな社会課題に挑戦をすることが重要で、常に「伝統と革新」の連続です。同グループは、創業以来の「伝統」である社是「誠実・努力・奉仕」を守りつつ、未来に向けた「革新」として「ポスト2020VISION：進化する快適ソリューショングループ」を2016年に決めました。その第一歩として、新中期経営計画(5ヶ年)を策定し、「BXグループの持続的成長」と「持続可能な社会の実現」の一体化をめざした取り組みをスタートさせています。

また、特集記事「新しい価値創造」への挑戦とBXグループの成長から同グループ60年の歴史と社会課題の解決に向けた取り組みを、さらに「震災に強い製品づくりで「安心」「安全」な社会の実現に貢献」では、ライフライン環境防災研究所の活動を通じた防災ソリューションの開発・拡充への取り組みが開示されています。

こうした「伝統と革新」の活動を通じて、社是・経営理念にある「お客様の幸せ」という創業者の思いが今日まで貫かれていることが示され、その意味からも秀逸な報告書であると言えます。

●今後の改善に期待する点

普遍的価値のCSRを大切にしながら、時代が求める社会課題への取り組みを期待します。

CSRは、コンプライアンスから始まり、社会貢献活動まで含めた幅広い概念で、いつの時代も大切な「普遍的価値」といわれています。当報告書では、ISO26000の7つの中核課題を踏まえつつ、CSR憲章と行動指針をもとに憲章で定める4テーマごとに年度目標の実践と評価が開示されており、普遍的な取り組みとすることができそうです。

一方、当報告書では、今の時代に求められるCSV(共益の創造)、ESG(環境、社会、企業統治)、人権・労働を重視する「働き方改革」についても触れられ、新しい取り組みが進んでいることが伺えます。

時代の要請に応じた重点課題への対応は、多様な価値のCSRを生み出し同社のイノベーションを促進する効果が期待できます。今後も普遍的な価値のCSRに加えて、重点課題としての新しいCSRへの取り組みにより、創業60周年から80周年、そして次の100周年に向けて持続可能な発展に結びつくことを心から祈念しています。

第三者意見をいただいて



文化シャッター
CSR統括部 執行役員部長
松山 成強

当社グループのCSR報告書につきまして、水尾先生には昨年に引き続き、貴重なご意見を頂戴し、深く感謝申し上げます。

この度のCSR報告書では、本業を通じた社会への貢献と企業成長の両立をテーマに、内容を構成しております。創業当初より社会課題に真摯に向き合ってきた当社グループの姿勢が、今日の成長・発展へとつながっていることは、ステークホルダーの皆様のご協力があるからこそ、真摯に受け止め感謝しております。水尾先生には、このような当社グループの企業文化という「伝統」と、中期経営計画に掲げる「革新」の関係を高くご評価いただきました。この事は大変嬉

しく、社是・経営理念に沿ったCSR経営を推進していく上で、大きな励みとなりました。

当社グループのCSRは、社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」を根幹として活動しており、4つの柱からなるこの憲章はグループ全従業員の活動指針となる、いわば羅針盤です。ご指摘いただきました通り、今後も「CSR憲章」を基軸にした取り組みは普遍的なものとして継続するとともに、時代の要請やステークホルダーの皆様からの期待に応じた重点課題を明確にし、グループ一丸となって取り組んでまいります。その努力こそが、社会の持続的発展とグループの成長・発展の両立の実現につながると信じております。

会社概要

コーポレートデータ

社名 文化シャッター株式会社	事業内容 各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売
本社 〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号	資本金 15,051百万円(2017年3月現在)
TEL:03-5844-7200(代表) FAX:03-5844-7201	従業員数 4,012名(連結2017年3月現在)
設立 1955年(昭和30年)4月18日	営業所 全国231ヶ所(連結321ヶ所)

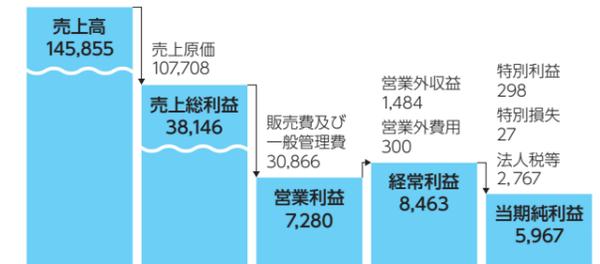
財務データ

BXグループでは、ステークホルダーの皆様への責任として、経営の透明性を高め健全な財務体質の強化を図るとともに、公正、適正に情報公開しています。

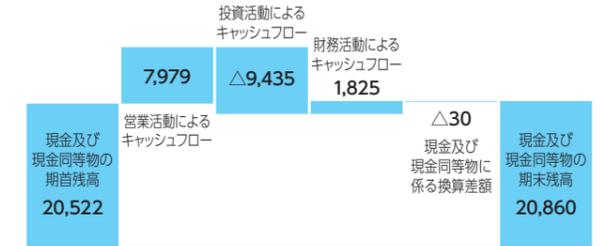
連結貸借対照表(B/S) 単位(百万円)

資産の部 合計 139,660		負債・純資産の部 合計 139,660	
現金及び預金 22,491	流動資産 81,542	支払手形及び買掛金 29,844	流動負債 46,975
受取手形及び売掛金 42,145		短期借入金 3,200	
商品及び製品 9,135		リース債務 470	
仕掛品 846		未払費用 5,011	
原材料及び貯蔵品 3,047		賞与引当金 3,094	固定負債 25,755
繰延税金資産 1,204		その他 5,354	
その他 2,760		長期借入金 5,550	
貸倒引当金 △88	固定資産 58,118	退職給付に係る負債 18,233	純資産 66,929
		その他 1,972	
有形固定資産 28,386		株主資本 62,678	
無形固定資産 5,676		その他の包括利益累計額 4,250	
投資その他の資産 24,055			

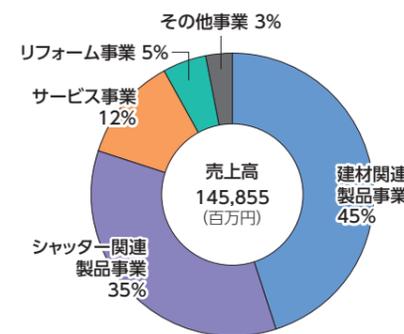
連結損益計算書(P/L) 単位(百万円)



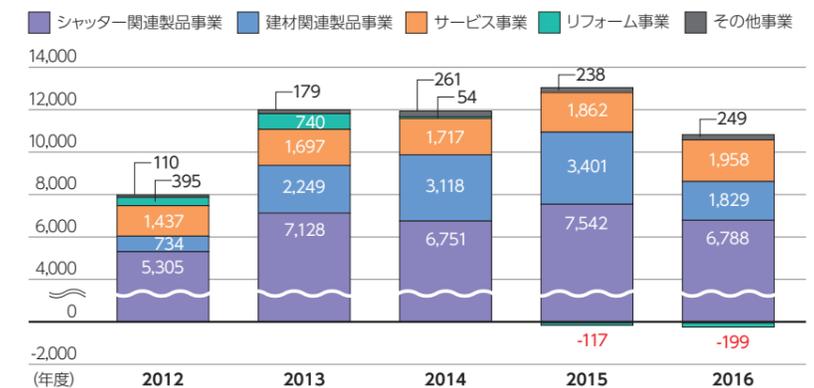
連結キャッシュフロー(C/F) 単位(百万円)



事業別売上高の構成比



事業別営業利益の推移 単位(百万円)



主要指標経年変化 単位(億円)





文化シヤッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号
<http://www.bunka-s.co.jp/>

お問い合わせ先

CSR統括部

TEL.03-5844-7330

FAX.03-5844-7331

